

傘の安全性に関する調査

令和 7 年 3 月

東京都生活文化スポーツ局

目次

1 調査概要	1
1.1 背景	1
1.2 目的	1
1.3 調査内容	1
2 Web アンケートによる傘に関する都民の使用実態調査	2
2.1 調査概要	2
2.2 調査結果	4
3 傘の表示調査	47
3.1 検体選定	47
3.2 表示調査概要	48
3.3 表示調査結果	49
4 傘の安全性に関する試験	53
4.1 傘の横持ち衝突試験	53
4.2 傘の横持ち衝撃可視化	56
4.3 傘の横持ち衝撃力測定	58
5 まとめ	60
5.1 Web アンケートによる傘に関する都民の使用実態調査	60
5.2 傘の表示調査	61
5.3 傘の安全性に関する試験	61
6 消費者へのアドバイス	62
7 参考文献	63

1 調査概要

1.1 背景

総務省統計局のデータによると、2022 年度の東京都の降水日数は 1 年で 109 日であり、都民は 1 年の約 3 割も雨傘を使用又は携行する機会を有する結果となっている¹⁾。

また、近年環境省が日傘の活用促進を行った²⁾ところであるが、暑さや紫外線を防ぐために日傘を使用する人も多くなっており、2022 年のウェザーニュースの調査によると、日傘を持っている人は全国平均で 33%に上った³⁾。

このように使用機会が非常に多い傘だが、使用方法や持ち運び方法を誤ると重大な事故につながる危険がある。

過去に東京都が行ったヒヤリ・ハット調査「降雨時の身の回りの危険(平成 25 年 6 月)」によると、降雨時以外に傘を携行(たたんだ状態に)していたとき、3,000 人中 1,260 人(42%)が、ヒヤリ・ハットや危害経験があったと回答していた。このうち、「駅の階段やエスカレーターで前の人が傘を水平に持つ(振る)」に近い状況でのヒヤリ・ハットは約 6 割に上り、傘が「顔をかすめた」、傘に「突かれそうになった」「刺されそうになった」等、ケガに至らなくとも傘の携行時における不快感や恐怖・怒りを感じる回答が多く見られた⁴⁾。

1.2 目的

携行時の傘によるヒヤリ・ハットや危害経験は多く発生していると考えられるが、東京都や区市の消費生活センターへの相談事例は少なく、危険な事例の詳細な状況、事故の実態等の把握が困難となっている。

このことから、傘による危害の実態、消費者の意識等を確認し、消費者に対する注意喚起及び事業者に対する情報提供等を行い、消費者の事故防止を図ることを目的として、本調査を実施した。

1.3 調査内容

本調査は、以下の 3 つの内容に分けて実施した。

- ①Web アンケートによる傘に関する都民の使用実態調査
- ②傘の表示調査
- ③傘の安全性に関する試験

2 Web アンケートによる傘に関する都民の使用実態調査

2.1 調査概要

調査対象

東京都内に在住する人を対象とし、各性別・年代 200 人ずつの計 2,000 人について調査を実施した。

表1 調査対象人数

	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上	計
男性	200	200	200	200	200	1,000
女性	200	200	200	200	200	1,000
計	400	400	400	400	400	2,000

(人)

調査方法

インターネットアンケート（Web ページによるアンケート調査）

調査期間

令和6年11月5日（火）～6日（水）

調査内容

所有する傘の種類・使用方法、使用時の危害やヒヤリ・ハットの経験有無などについて聴取した。

表2 調査内容一覧

1	普段使用する傘の種類
2	傘の入手・購入方法
3	傘を入手・購入するときの決め手
4	したことのある傘の持ち方
5	持ち方の理由
	i . 傘を斜めにして持つ理由
	ii . 傘を横にして持つ理由
	iii . 傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ理由
	iv . 3 種いずれかの持ち方
6	傘の注意表示の確認状況

7	注意表示を確認しなかった理由
8	傘での危害やヒヤリ・ハットの経験
9	他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの発生場所
10	他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの体の部位
11	他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例
12	他人の傘で危害やヒヤリ・ハットを受けたときの相談・連絡先
13	自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの発生場所
14	自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの体の部位
15	自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例
16	自分の傘で危害やヒヤリ・ハットを与えたときの相談・連絡先
17	自分の傘で自分が受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例
18	傘での危害やヒヤリ・ハットの目撃経験
19	他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットの発生場所
20	他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットの体の部位
21	他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例

集計上の注意事項

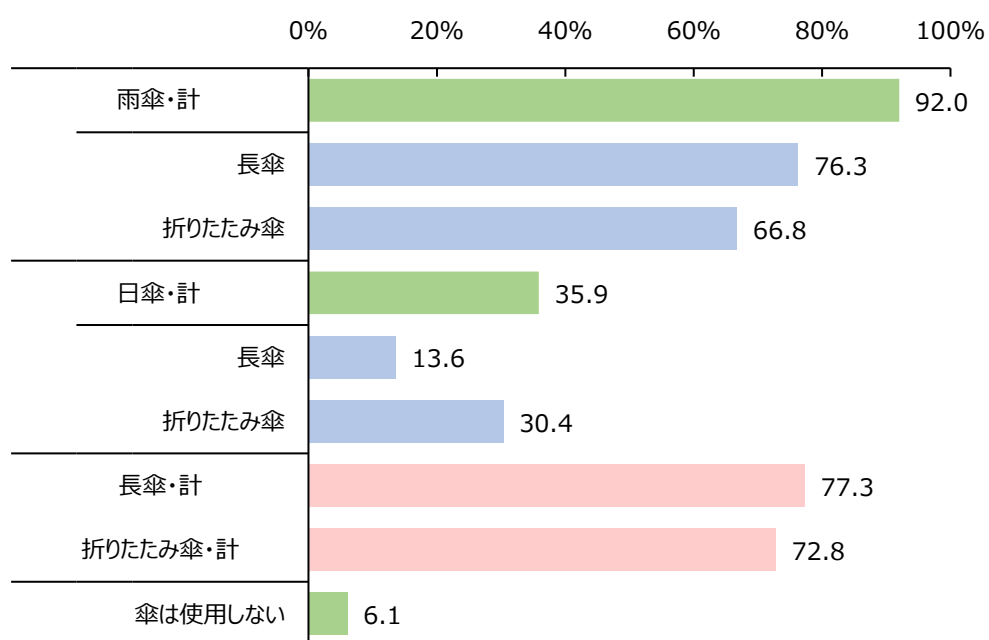
- ① 図表中に示してある「n」は回答者全体の人数であるが、設問によっては回答者を限定している場合があり、n の値は変動する。
- ② 設問に対する回答は、1 つの場合（単一回答）やいくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、回答割合の合計は通常 100%を超える。
- ③ 百分率は n を 100%として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して第 1 位まで示した。このため、全ての選択肢の割合を合計しても 100%にならない場合がある。
- ④ 設問によっては、回答者が限定された結果 n が非常に少なくなる場合があるが、分析精度の観点から、n が 30 を下回った属性については参考値としてグレーアウトし、結果では言及していない。
- ⑤ 数表において、全体よりも 10 ポイント以上割合が高いセルを赤色（■）、5 ポイント以上割合が高いセルを薄い赤色（■）、10 ポイント以上割合が低いセルを青色（■）、5 ポイント以上割合が低いセルを薄い青色（■）に着色している。

2.2 調査結果

(1) 普段使用する傘の種類

普段使用する傘の種類は、「雨傘」が 92.0%、「日傘」が 35.9%であった。また、「長傘」が 77.3%、「折りたたみ傘」が 72.8%であった。

雨傘では、「長傘」が 76.3%、「折りたたみ傘」が 66.8%と、長傘のほうが高かった。一方、日傘では、「長傘」が 13.6%、「折りたたみ傘」が 30.4%と、折りたたみ傘のほうが高かった。



(n=2,000)

(注) 晴雨兼用の長傘を「雨傘としてのみ」使用する場合は、「雨傘・長傘」のみを選択してもらった。

図1 普段使用する傘の種類（複数回答）

性別でみると、「日傘」は女性が 61.0%、男性が 10.8%と、女性のほうが高かった。
 年代別でみると、「折りたたみ傘」は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。

表 3 普段使用する傘の種類（性別／年代別）

	n	雨傘			日傘			長傘・計	折りたたみ傘・計	傘は 使用 しない
		雨傘・計	長傘	折りたたみ傘	日傘・計	長傘	折りたたみ傘			
全体	2,000	92.0	76.3	66.8	35.9	13.6	30.4	77.3	72.8	6.1
男性	1,000	92.3	74.0	65.9	10.8	3.1	9.4	74.2	67.2	7.2
女性	1,000	91.6	78.6	67.7	61.0	24.0	51.3	80.4	78.3	5.0
20 代	400	84.0	66.0	60.5	31.8	9.5	28.0	67.3	67.3	13.8
30 代	400	89.8	72.3	62.0	37.0	15.5	30.3	74.0	68.5	7.8
40 代	400	92.8	79.3	64.8	35.3	12.5	29.8	80.3	69.8	5.8
50 代	400	96.0	79.3	71.8	37.0	13.5	32.0	80.0	78.3	1.8
60 歳以上	400	97.3	84.8	75.0	38.5	16.8	31.8	85.0	80.0	1.5

(人) (%)

(2) 傘の入手・購入方法

傘の入手・購入方法は、「雑貨店／量販店など」が 55.8%で最も高く、次いで「インターネット販売」が 26.0%、「コンビニエンスストア」が 23.4%であった。その他の自由記述には、「クラウドファンディング」等があった。

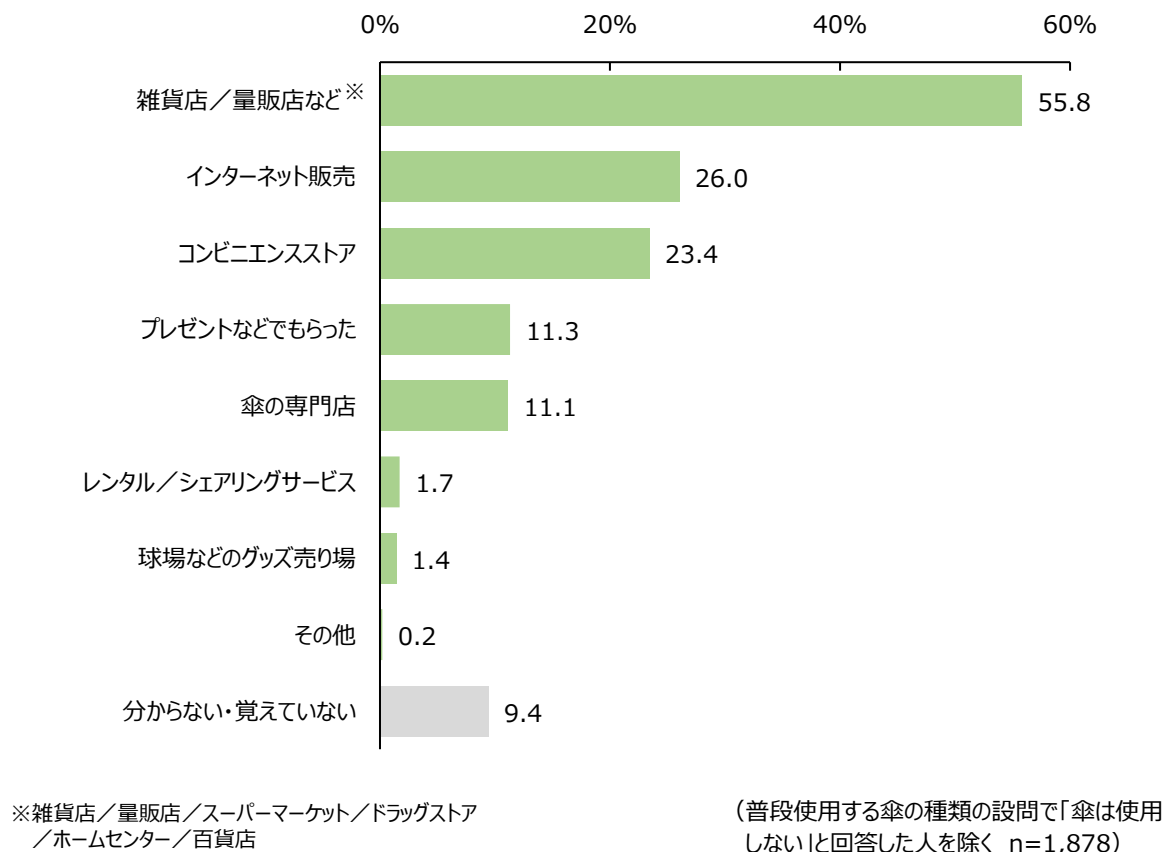


図2 傘の入手・購入方法（複数回答）

性別でみると、「雑貨店／量販店など」が男性・女性共に最も高かった。次いで、男性は「コンビニエンスストア」が 31.5%、女性は「インターネット販売」が 31.8%であった。

年代別でみると、「雑貨店／量販店など」は 20 代を除き年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。一方、「インターネット販売」「コンビニエンスストア」は、20 代を除き年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられた。

表 4 傘の入手・購入方法（性別／年代別）

	n	雑貨店／量販店／スーパーマーケット／ドラッグストア／ホームセンター／百貨店	インターネット販売	コンビニエンスストア	プレゼントなどでもらった	傘の専門店	レンタル／シェアリングサービス	球場などのグッズ売り場	その他	分からない・覚えていない
全体	1,878	55.8	26.0	23.4	11.3	11.1	1.7	1.4	0.2	9.4
男性	928	53.6	20.2	31.5	8.5	11.1	1.8	1.2	0.2	10.5
女性	950	57.9	31.8	15.6	14.0	11.2	1.5	1.6	0.2	8.3
20 代	345	50.7	22.6	26.4	10.1	10.4	2.9	1.7	0.3	12.5
30 代	369	46.9	29.0	32.8	10.0	14.6	4.1	4.1	0.3	10.3
40 代	377	56.2	27.9	22.3	8.0	10.3	1.1	0.8	0.3	9.3
50 代	393	59.3	25.7	20.6	10.9	8.1	0.3	-	0.3	7.1
60 歳以上	394	64.5	24.9	16.0	17.0	12.2	0.3	0.5	-	8.1

(人) (%)

※ 普段使用する傘の種類の設問で「傘は使用しない」と回答した人を除く

（３）傘を入手・購入するときの決め手

傘を入手・購入するときの決め手は、「価格」が 64.7%で最も高く、次いで「開いたときの大きさ」が 51.9%、「色／デザイン」が 43.7%であった。その他の自由記述には、「遮光性」「持ち手の形状や持ちやすさ」等があった。

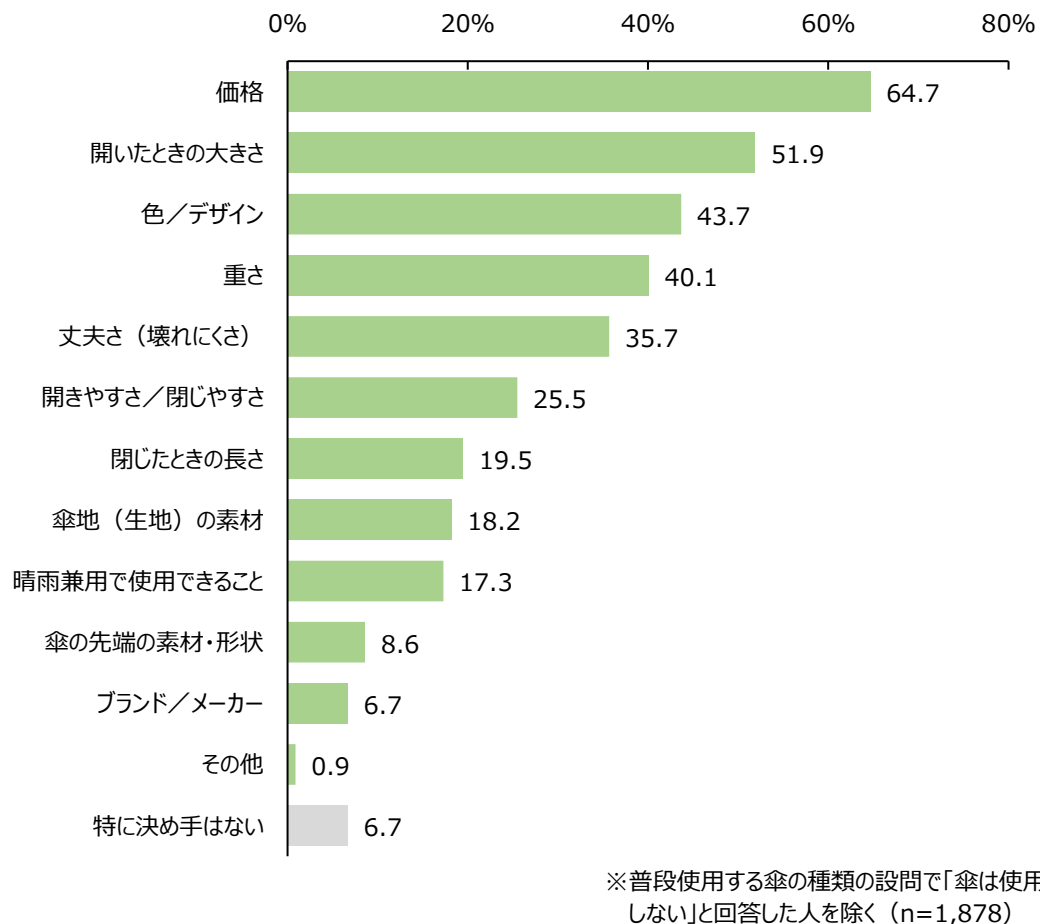


図 3 傘を入手・購入するときの決め手（複数回答）

性別でみると、「色／デザイン」は女性が 60.5%で、男性の 26.4%より高かった。また、「晴雨兼用で可以使用すること」は女性が 29.3%で、男性の 5.1%より高かった。

年代別でみると、「開いたときの大きさ」「重さ」「晴雨兼用で可以使用すること」は年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。

表5 傘を入手・購入するときの決め手（性別／年代別）

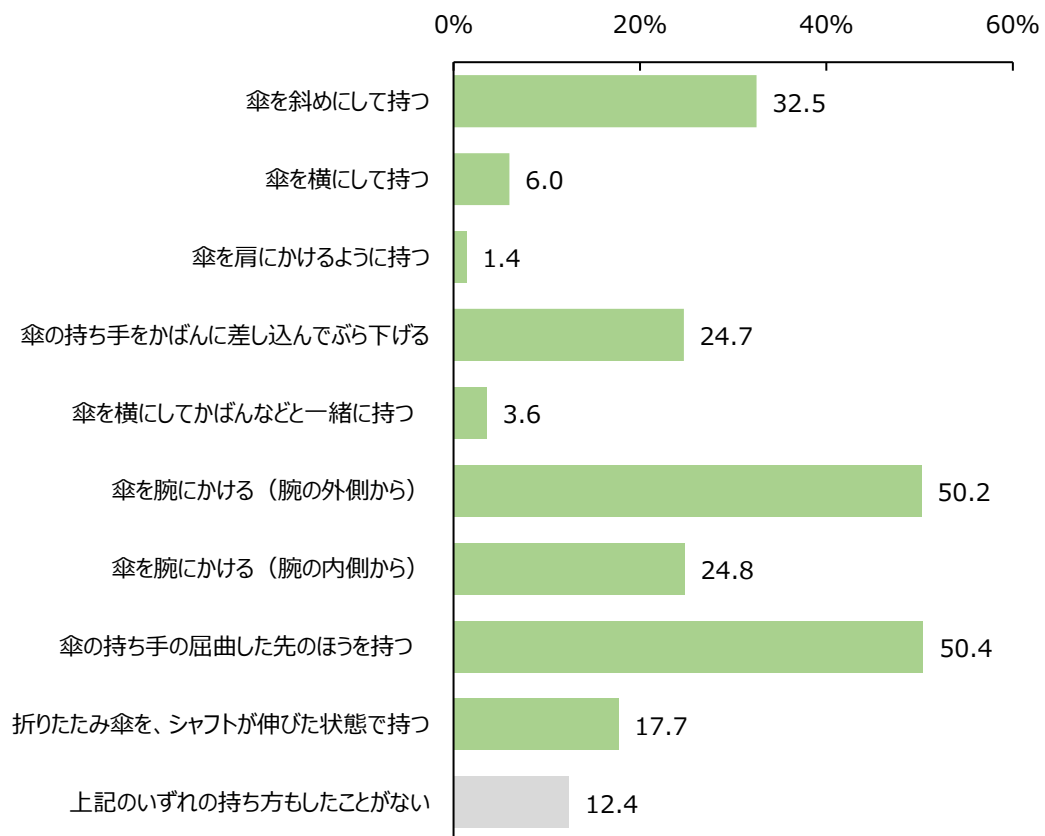
	n	価格	開いたときの大きさ	色／デザイン	重さ	丈夫さ（壊れにくさ）	開きやすさ／閉じやすさ	閉じたときの長さ	傘地（生地）の素材	晴雨兼用で可以使用すること	傘の先端の素材・形状	ブランド／メーカー	その他	特に決め手はない
全体	1,878	64.7	51.9	43.7	40.1	35.7	25.5	19.5	18.2	17.3	8.6	6.7	0.9	6.7
男性	928	64.0	54.8	26.4	30.5	36.2	19.1	19.6	15.3	5.1	7.3	5.1	0.3	9.2
女性	950	65.4	49.1	60.5	49.5	35.3	31.7	19.5	21.1	29.3	9.9	8.3	1.5	4.3
20代	345	55.9	39.4	31.3	26.4	30.7	16.5	12.8	12.8	12.5	4.1	6.1	0.6	12.2
30代	369	58.8	48.2	41.2	34.4	32.2	20.9	20.9	17.6	16.3	9.8	8.1	0.5	10.0
40代	377	67.4	55.4	47.5	41.4	39.8	27.6	22.0	17.0	17.5	9.3	7.2	1.1	5.0
50代	393	74.0	57.0	46.8	43.8	36.6	26.0	23.4	18.1	18.8	10.2	6.1	1.0	2.8
60歳以上	394	66.0	57.9	50.0	52.5	38.6	35.0	18.0	24.9	20.8	9.4	6.1	1.3	4.3

（人）（％）

※ 普段使用する傘の種類の設問で「傘は使用しない」と回答した人を除く

（４）したことのある傘の持ち方

したことのある傘の持ち方は、「傘の持ち手の屈曲した先のほうを持つ」が 50.4%で最も高く、次いで「傘を腕にかける（腕の外側から）」が 50.2%であった。回答者に提示した傘の持ち方のイラストについては、図 5 のとおりである。



(n=2,000)

図 4 したことのある傘の持ち方（複数回答）

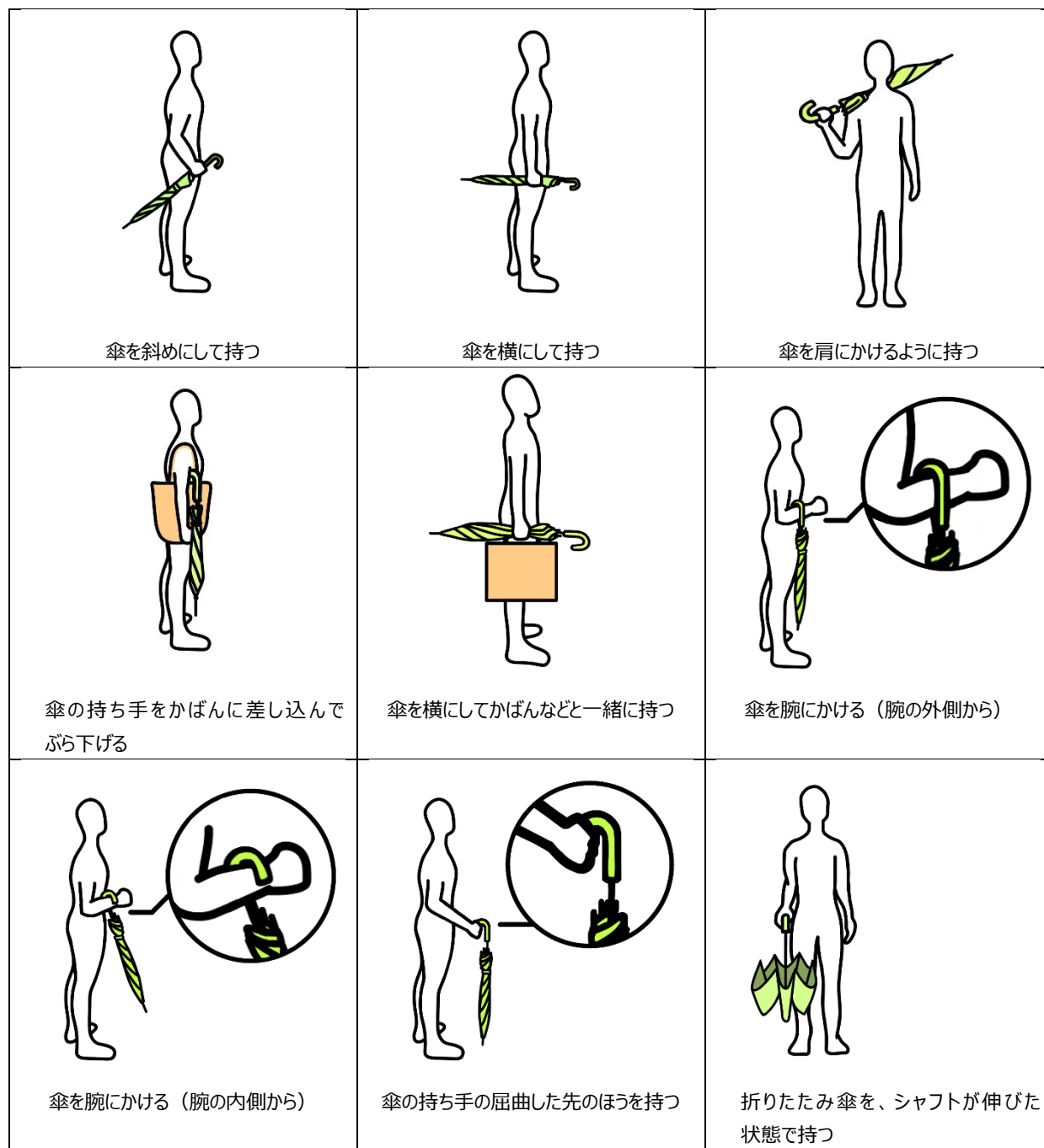


図5 回答者に提示した傘の持ち方のイラスト

性別でみると、「傘を斜めにして持つ」は男性が 40.1%で、女性の 24.8%より高かった。一方、「傘を腕にかける（腕の外側から）」は女性が 60.7%で、男性の 39.7%より高かった。

年代別でみると、「傘の持ち手をかばんに差し込んでぶら下げる」は 30 代が 31.0%、40 代が 33.5%と、他の年代に比べて高かった。

表 6 したことがある傘の持ち方（性別／年代別）

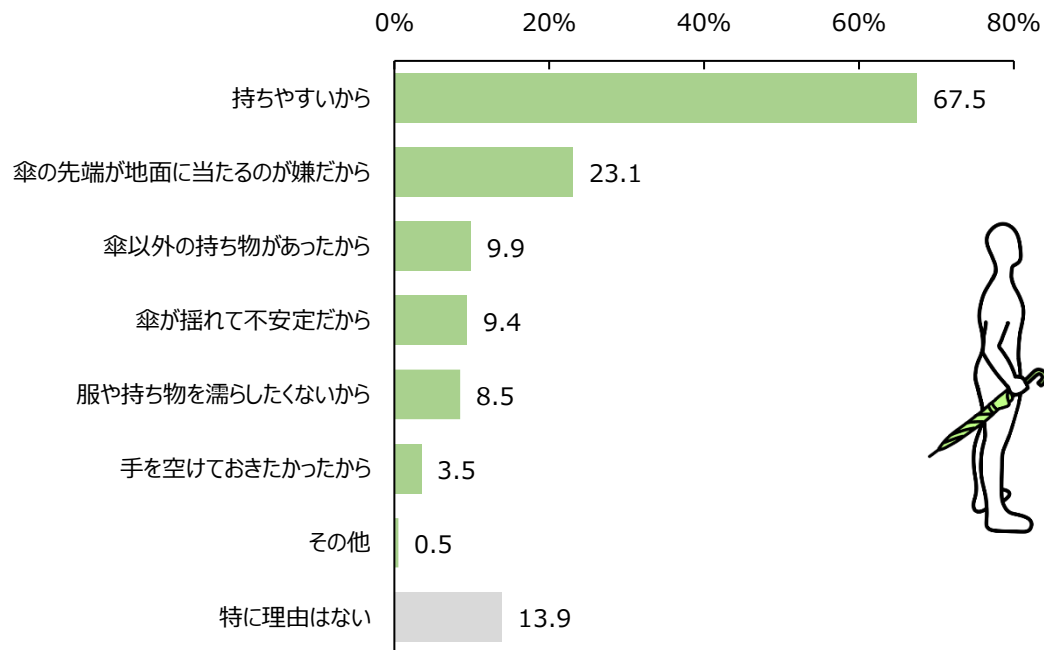
	n	傘を斜めにして持つ	傘を横にして持つ	傘を肩にかけるように持つ	傘の持ち手をかばんに差し込んでぶら下げる	傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ	傘を腕にかける（腕の外側から）	傘を腕にかける（腕の内側から）	傘の持ち手の屈曲した先のほうを持つ	折りたたみ傘を、シャフトが伸びた状態で持つ	上記のいずれの持ち方もしたことがない
全体	2,000	32.5	6.0	1.4	24.7	3.6	50.2	24.8	50.4	17.7	12.4
男性	1,000	40.1	9.2	2.2	20.3	5.8	39.7	21.5	49.8	16.2	14.8
女性	1,000	24.8	2.7	0.6	29.1	1.3	60.7	28.1	51.0	19.2	10.0
20 代	400	32.8	5.3	3.3	24.5	2.5	51.8	22.0	44.5	23.3	15.0
30 代	400	37.3	9.8	1.5	31.0	4.3	52.0	25.5	49.8	22.5	7.3
40 代	400	35.5	6.0	0.3	33.5	3.8	55.5	28.0	53.8	18.0	9.3
50 代	400	28.0	5.3	1.8	22.0	4.0	50.3	25.3	49.5	15.5	14.8
60 歳以上	400	28.8	3.5	0.3	12.5	3.3	41.5	23.3	54.5	9.3	15.8

(人) (%)

(5) 持ち方の理由

(i) 傘を斜めにして持つ

傘を斜めにして持つ理由は、「持ちやすいから」が 67.5%で最も高く、次いで「傘の先端が地面に当たるのが嫌だから」が 23.1%であった。その他の自由記述には、「防犯上の理由」等があった。

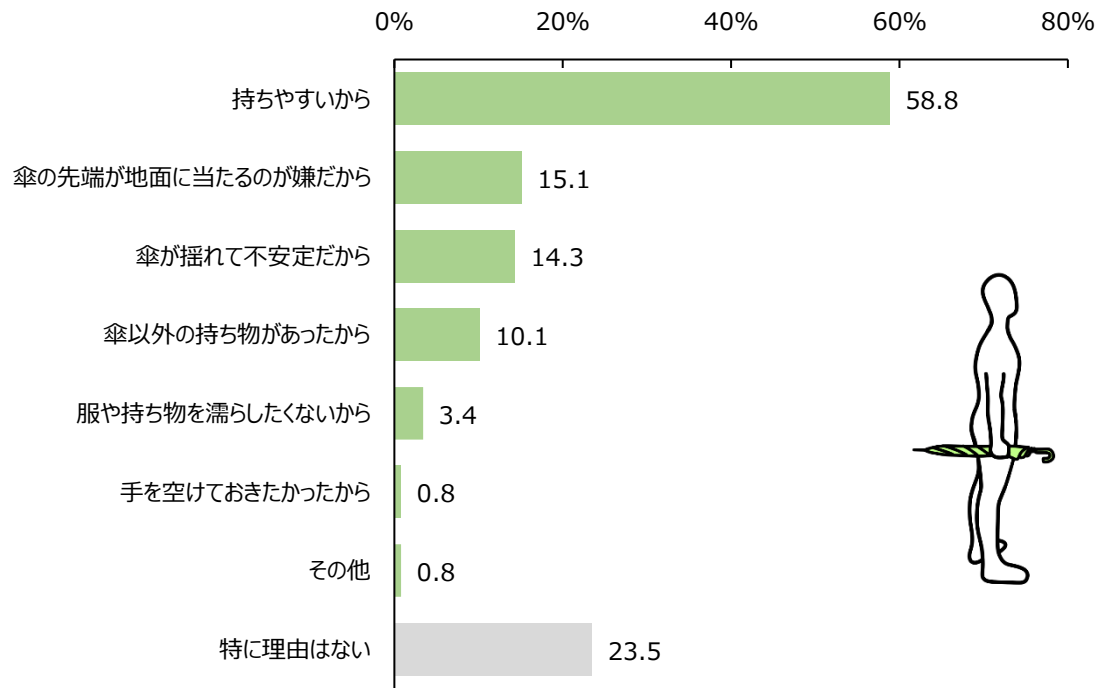


※傘を斜めにして持ったことがある人 (n=649)

図6 持ち方の理由_傘を斜めにして持つ (複数回答)

(ii) 傘を横にして持つ

傘を横にして持つ理由は、「持ちやすいから」が 58.8%で最も高かった。

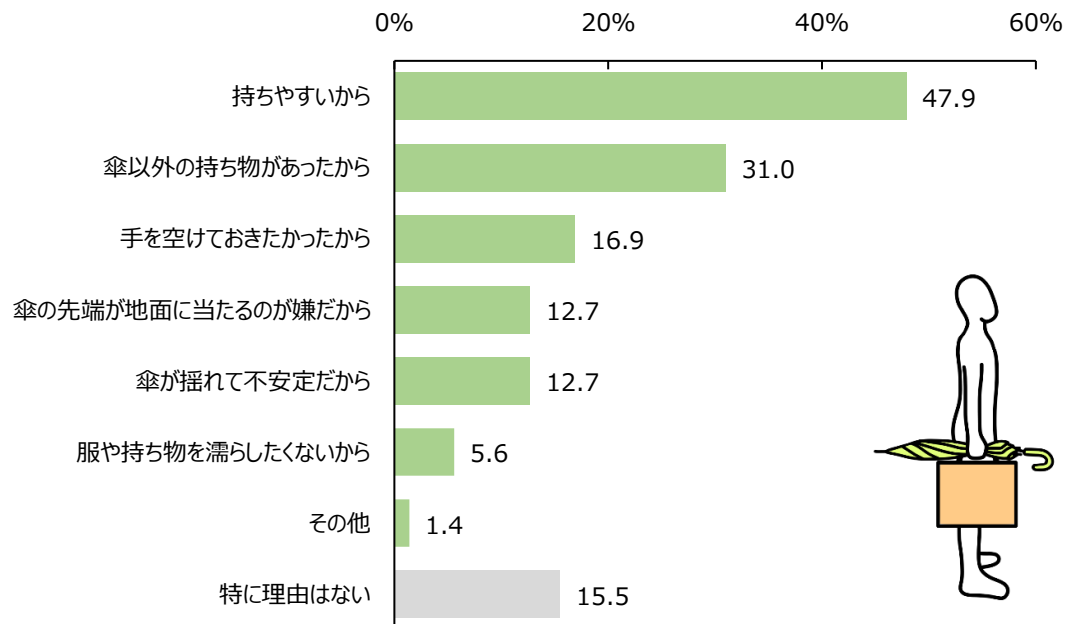


※傘を横にして持ったことがある人 (n=119)

図7 持ち方の理由_傘を横にして持つ (複数回答)

(iii) 傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ

傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ理由は、「持ちやすいから」が 47.9%で最も高く、次いで「傘以外の持ち物があったから」が 31.0%、「手を空けておきたかったから」が 16.9%であった。

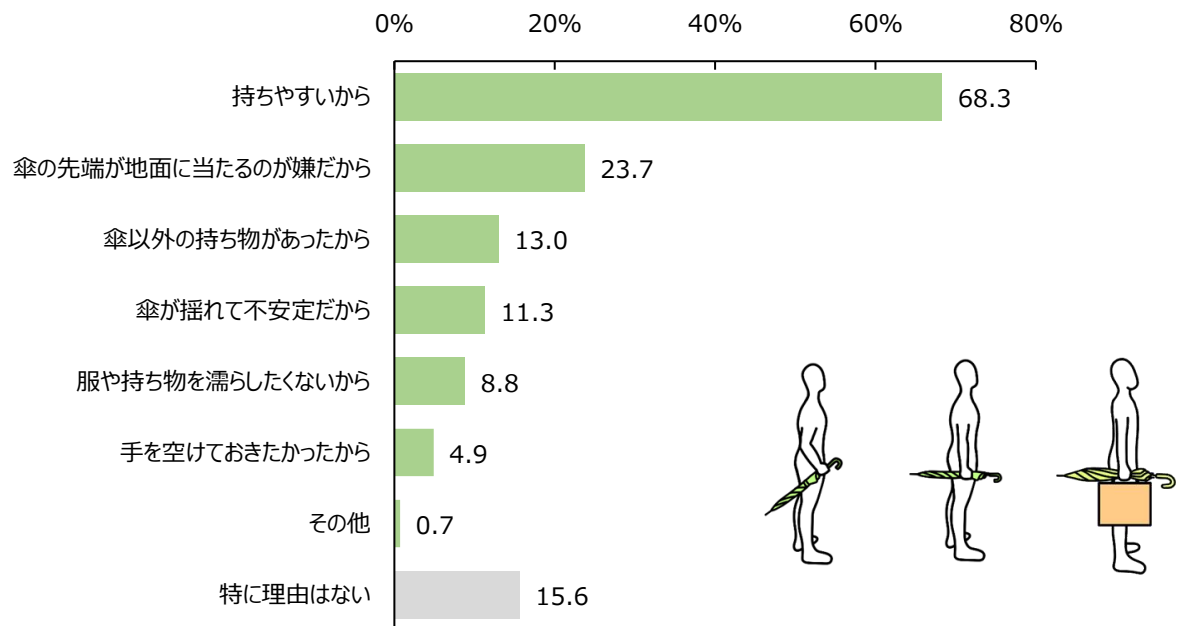


※傘を横にしてかばんなどと一緒に持ったことがある人 (n=71)

図8 持ち方の理由_傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ (複数回答)

(iv) 3 種いずれかの持ち方

「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」の 3 種いずれかの持ち方をした理由は、「持ちやすいから」が 68.3%で最も高く、次いで「傘の先端が地面に当たるのが嫌だから」が 23.7%、「傘以外の持ち物があったから」が 13.0%であった。



※「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をしたことがある人
(n=679)

(注) 図中の%は、「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をした理由として該当の選択肢を選んだ割合

図 9 持ち方の理由_3 種いずれかの持ち方 (複数回答)

性別でみると、「持ちやすいから」は男性が 71.5%で、女性の 62.9%より高かった。

年代別でみると、「持ちやすいから」は 40 代が 74.3%で、他の年代に比べて高かった。一方、「手を空けておきたかったから」は 50 代が 10.1%で、他の年代に比べて高かった。

表 7 持ち方の理由_3 種いずれかの持ち方（性別／年代別）

	n	持ちやすいから	傘の先端が地面に当たるのが嫌だから	傘以外の持ち物があったから	傘が揺れて不安定だから	服や持ち物を濡らしたくないから	手を空けておきたかったから	その他	特に理由はない
全体	679	68.3	23.7	13.0	11.3	8.8	4.9	0.7	15.6
男性	428	71.5	22.4	11.7	10.3	6.5	5.6	0.7	16.8
女性	251	62.9	25.9	15.1	13.1	12.7	3.6	0.8	13.5
20 代	136	67.6	22.1	10.3	8.8	6.6	5.1	0.7	20.6
30 代	158	65.2	21.5	16.5	14.6	9.5	5.1	0.0	15.8
40 代	148	74.3	23.6	9.5	12.8	4.7	2.7	0.7	11.5
50 代	119	64.7	26.1	15.1	10.9	10.9	10.1	1.7	16.0
60 歳以上	118	69.5	26.3	13.6	8.5	13.6	1.7	0.8	14.4

(人) (%)

※「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をしたことがある人

(注) 表中の%は、「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をした理由として該当の選択肢を選んだ割合

(6) 傘の注意表示の確認状況

傘のタグや外袋に記載されている注意表示の確認状況は、「すべて確認した」が 9.3%、「部分的に確認した」が 16.8%、「確認していない」が 73.9%であった。

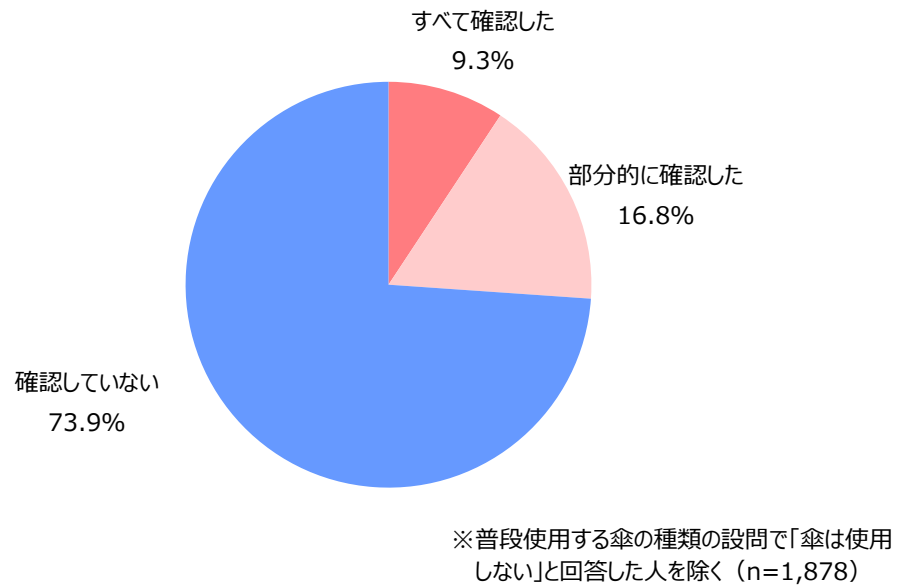
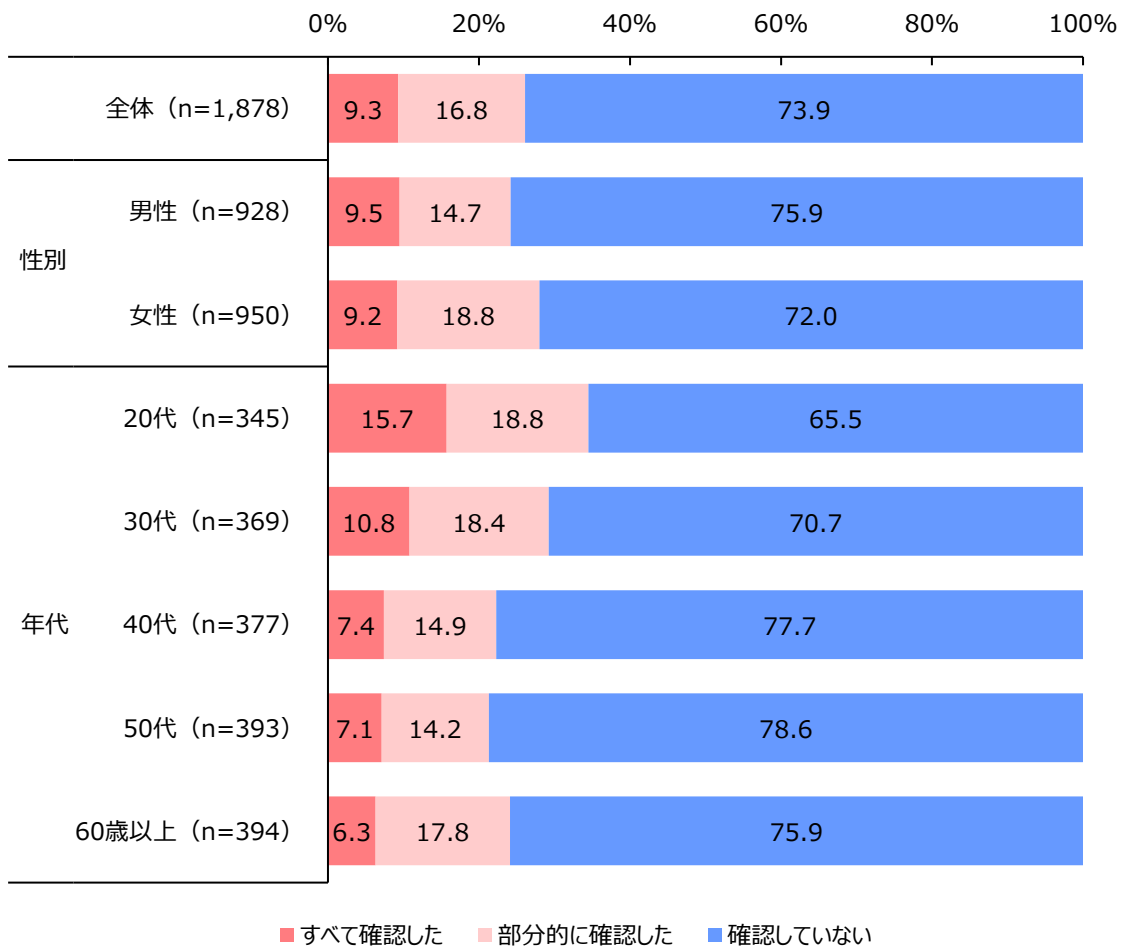


図 10 傘の注意表示の確認状況

性別でみると、「確認していない」は男性が75.9%で、女性の72.0%より高かった。
年代別でみると、「すべて確認した」は年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられた。



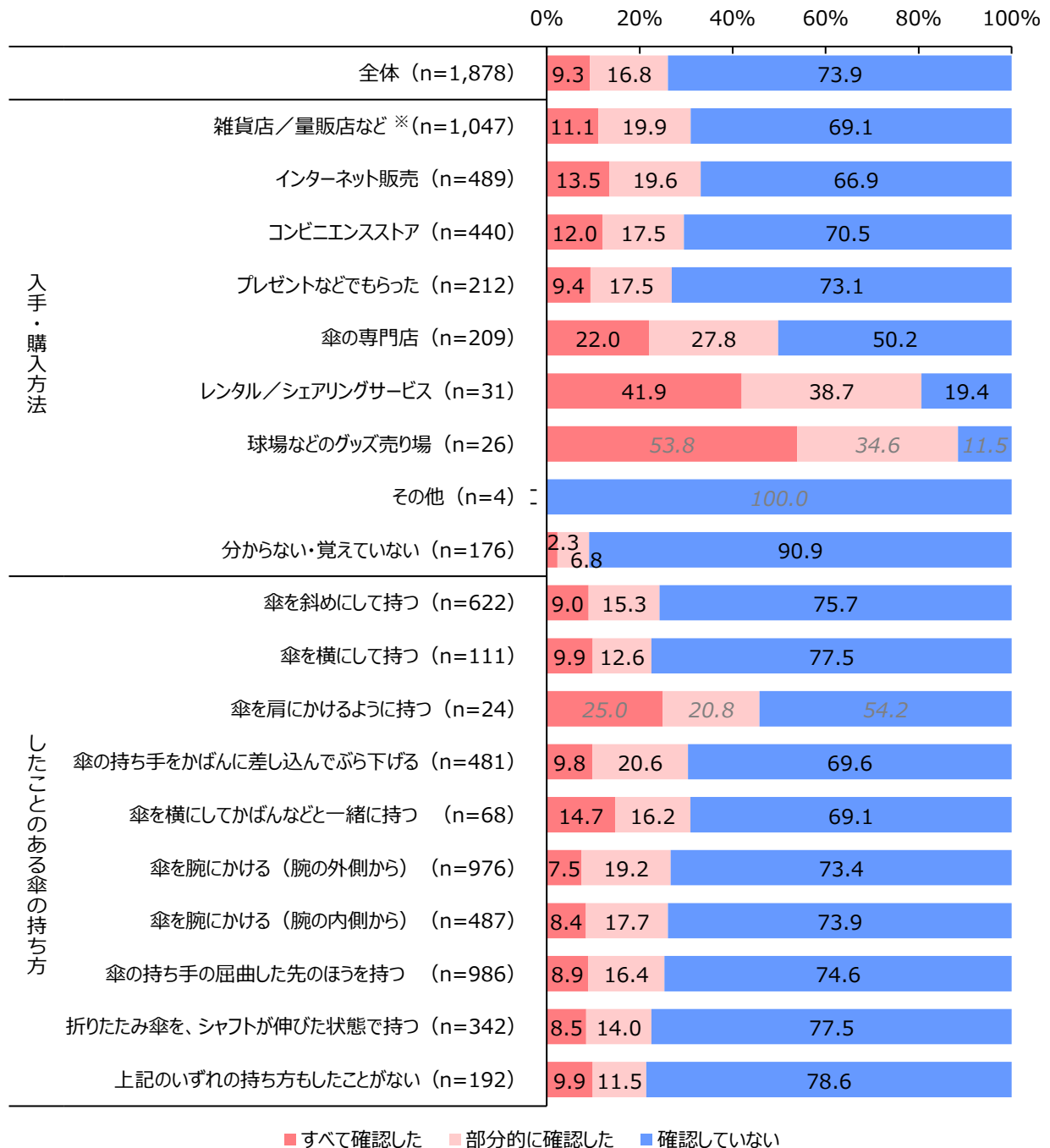
※ 普段使用する傘の種類の設問で「傘は使用しない」と回答した人を除く

図 11 傘の注意表示の確認状況（性別／年代別）

傘の入手・購入方法別でみると、「すべて確認した」は『レンタル／シェアリングサービス』で入手した人が41.9%で、他の方法に比べて高かった。

したことのある傘の持ち方別でみると、「すべて確認した」は『傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ』が14.7%と、他の持ち方に比べて高かった。

(n が 30 未満の数値ラベルは参考値としてグレー斜体)



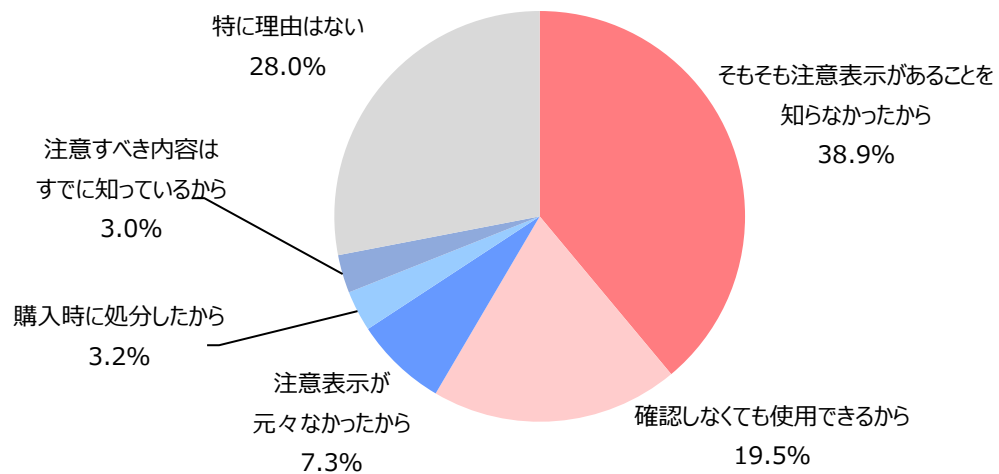
※雑貨店／量販店／スーパーマーケット／ドラッグストア／ホームセンター／百貨店

(普段使用する傘の種類の設問で「傘は使用しない」と回答した人を除く)

図 12 傘の注意表示の確認状況 (入手・購入方法別／したことのある傘の持ち方別)

(7) 注意表示を確認しなかった理由

傘のタグや外袋に記載されている注意表示を確認しなかった理由は、「そもそも注意表示があることを知らなかったから」が 38.9%で最も高く、次いで「確認しなくても使用できるから」が 19.5%であった。また、「特に理由はない」は 28.0%であった。

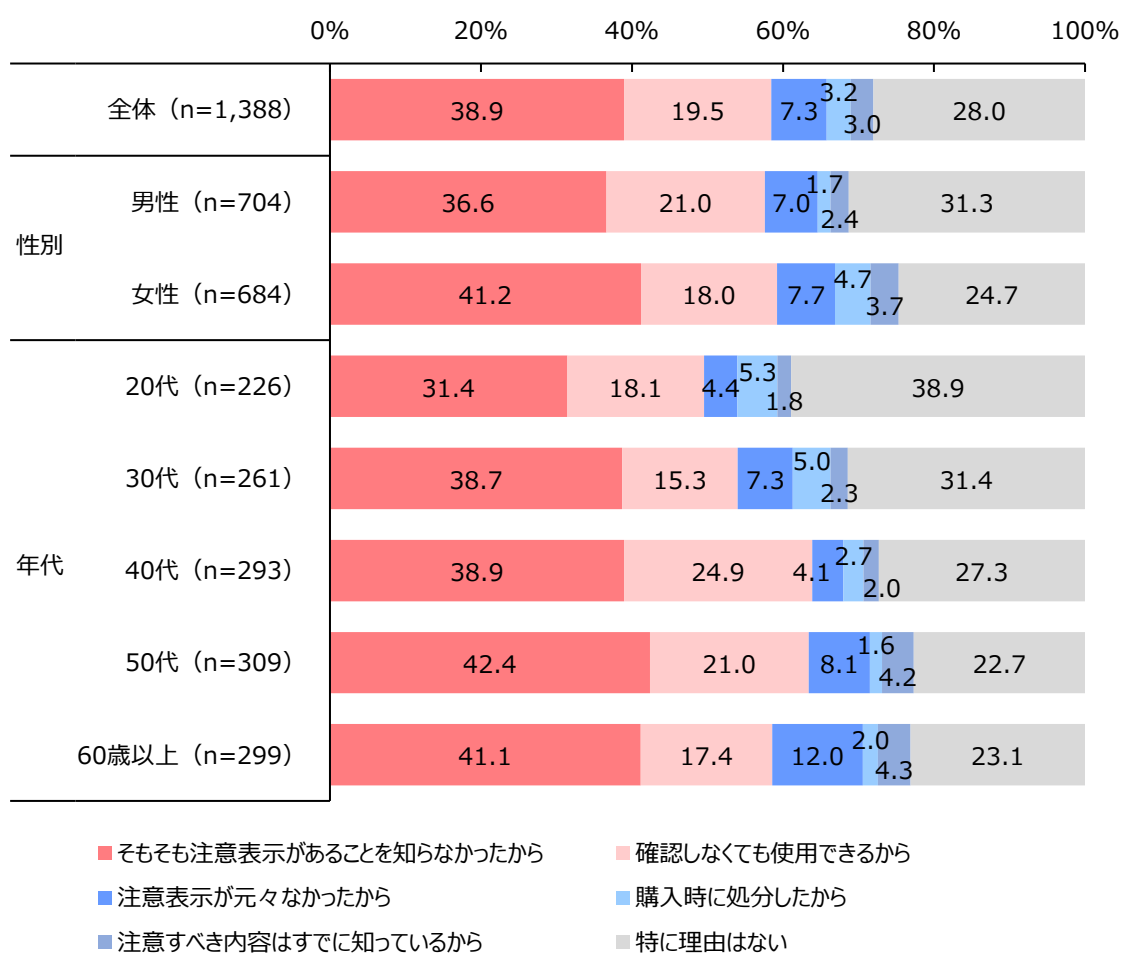


※傘の注意表示を「確認していない」人 (n=1,388)

図 13 注意表示を確認しなかった理由

性別でみると、「そもそも注意表示があることを知らなかったから」は女性が 41.2%で、男性の 36.6%より高かった。

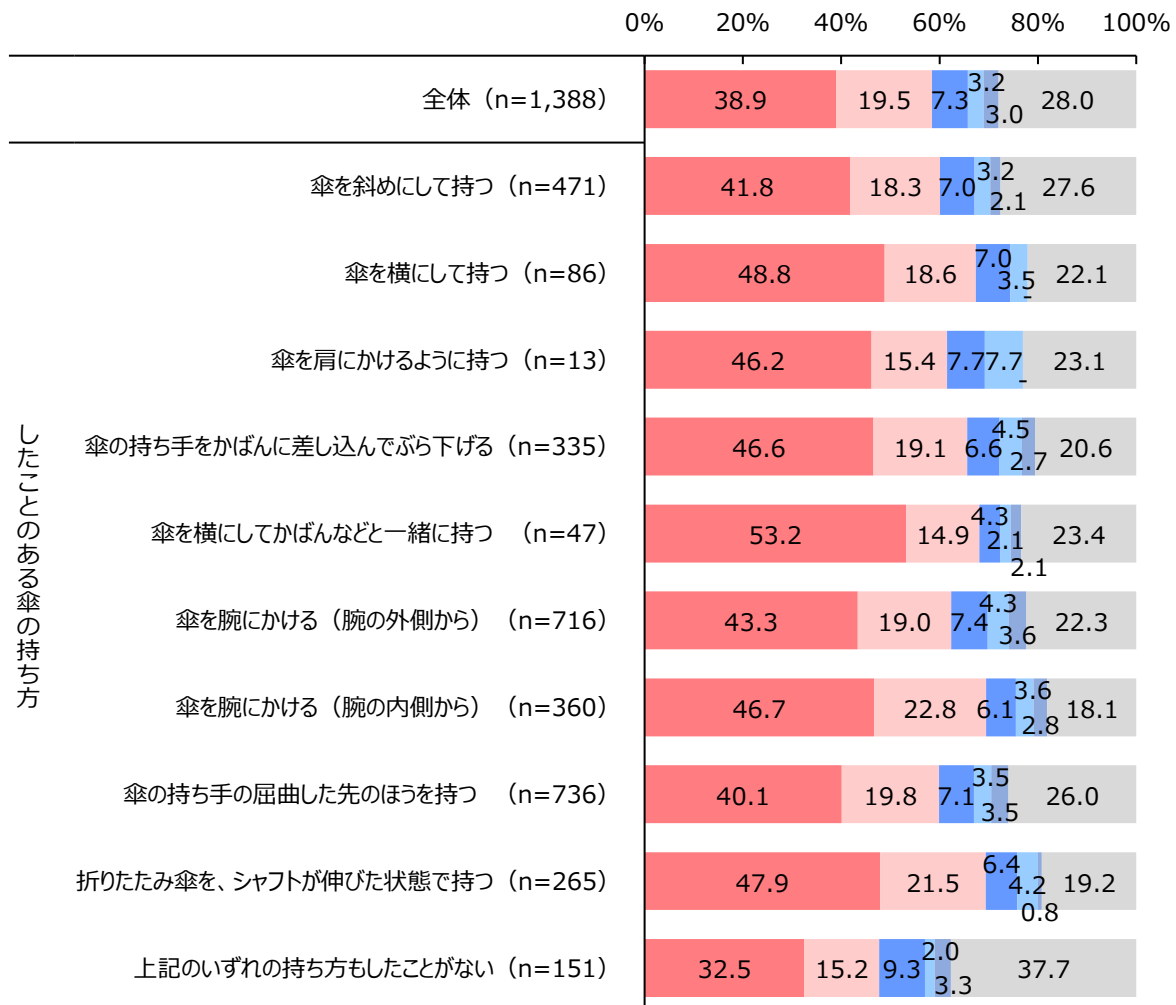
年代別でみると、「そもそも注意表示があることを知らなかったから」は 60 歳以上を除き年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。



※傘の注意表示を「確認していない」人

図 14 注意表示を確認しなかった理由（性別／年代別）

したことのある傘の持ち方別でみると、「そもそも注意表示があることを知らなかったから」は『傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ』で 53.2%と、他の持ち方に比べて高かった。



- そもそも注意表示があることを知らなかったから
- 確認しなくても使用できるから
- 注意表示が元々なかったから
- 購入時に処分したから
- 注意すべき内容はすでに知っているから
- 特に理由はない

※傘の注意表示を「確認していない」人

図 15 注意表示を確認しなかった理由 (したことのある傘の持ち方別)

(8) 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験

傘での危害やヒヤリ・ハットの経験は、「経験がある（他人からの被害）」が 35.0%、「経験がある（自分からの加害）」が 6.6%、「経験がある（不注意等による自傷）」が 9.8%であった。

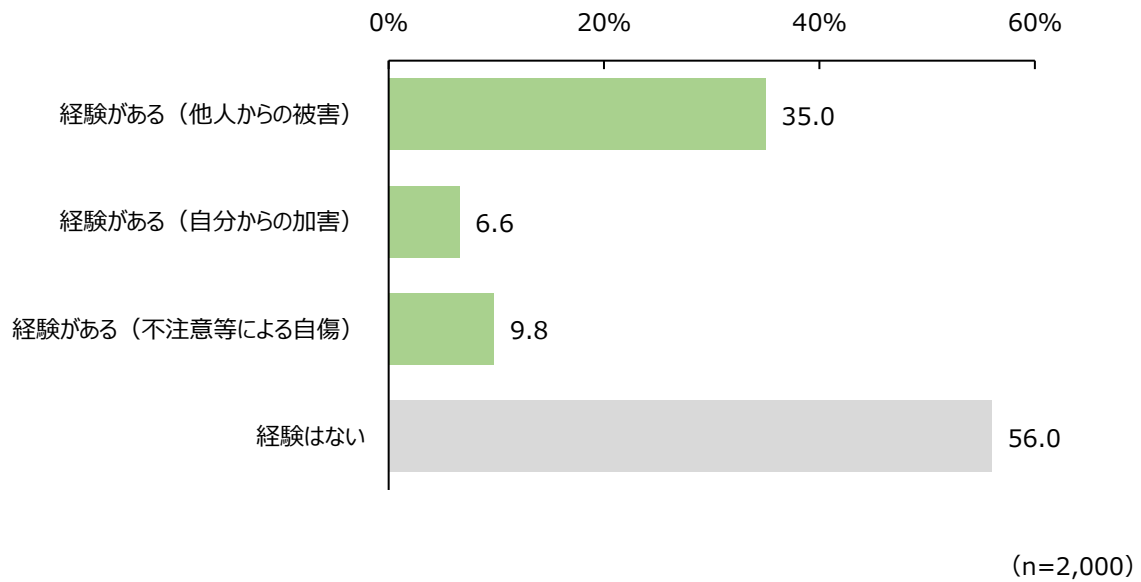


図 16 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験（複数回答）

性別でみると、「経験がある（他人からの被害）」は女性が 41.6%で、男性の 28.4%より高かった。「経験がある（自分からの加害）」は男性と女性で差はみられず、「経験がある（不注意等による自傷）」は女性が 12.1%で、男性の 7.5%より高かった。

年代別でみると、「経験がある（他人からの被害）」は 20 代が 25.8%で、他の年代に比べて低かった。

表 8 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験（性別／年代別）

	n	経験がある （他人からの被害）	経験がある （自分からの加害）	経験がある（不注意 等による自傷）	経験はない
全体	2,000	35.0	6.6	9.8	56.0
男性	1,000	28.4	6.7	7.5	63.2
女性	1,000	41.6	6.4	12.1	48.8
20 代	400	25.8	7.3	10.3	63.0
30 代	400	36.5	9.5	8.5	55.0
40 代	400	35.5	5.5	12.5	54.8
50 代	400	40.3	5.3	10.8	52.0
60 歳以上	400	37.0	5.3	7.0	55.3

(人)

(%)

普段使用する傘の種類別でみると、『日傘（長傘）』では「経験がある（自分からの加害）」「経験がある（不注意等による自傷）」のいずれの割合も、他の傘の種類に比べて高かった。

また、『雨傘』と『日傘』で比較すると、『日傘』のほうが危害やヒヤリ・ハットの経験割合が高かった。『長傘』と『折りたたみ傘』での比較では、差はみられなかった。

表 9 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験（普段使用する傘の種類別）

		n	経験がある （自分からの加害）	経験がある（不注意 等による自傷）	経験はない
全体		2,000	6.6	9.8	56.0
普段使用する傘の種類	雨傘（長傘）	1,526	7.3	10.9	52.9
	雨傘 （折りたたみ傘）	1,336	8.2	11.2	50.0
	日傘（長傘）	271	13.3	15.5	41.3
	日傘 （折りたたみ傘）	607	8.4	13.0	44.6
	雨傘・計	1,839	6.9	10.2	54.1
	日傘・計	718	7.8	12.8	45.8
	長傘・計	1,546	7.4	10.9	53.0
	折りたたみ傘・計	1,455	7.8	11.1	50.2

(人)

(%)

したことがある傘の持ち方別でみると、「経験がある（自分からの加害）」は『傘を横にして持つ』で 22.7%、『傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ』で 22.5%と、他の持ち方に比べて高かった。

表 10 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験（したことがある傘の持ち方別）

		n	経験がある （自分からの 加害）	経験がある （不注意等による自傷）	経験はない
	全体	2,000	6.6	9.8	56.0
したことがある傘の持ち方	傘を斜めにして持つ	649	10.8	12.9	55.9
	傘を横にして持つ	119	22.7	12.6	52.1
	傘を肩にかけるように持つ	28	21.4	14.3	64.3
	傘の持ち手をかばんに差し込んでぶら下げる	494	10.7	16.4	37.9
	傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ	71	22.5	15.5	45.1
	傘を腕にかける（腕の外側から）	1,004	6.9	11.7	48.9
	傘を腕にかける（腕の内側から）	496	8.5	11.5	44.2
	傘の持ち手の屈曲した先のほうを持つ	1,008	7.0	10.8	50.8
	折りたたみ傘を、シャフトが伸びた状態で持つ	354	9.0	14.1	45.5
	上記のいずれの持ち方もしたことがない	248	1.2	5.6	73.0

(人)

(%)

「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」の3種いずれかの持ち方をした理由別でみると、「経験がある（自分からの加害）」は『傘以外の持ち物があったから』で28.4%、『傘が揺れて不安定だから』で33.8%、『服や持ち物を濡らしたくないから』で21.7%、『手を空けておきたかったから』で30.3%と、他の理由に比べて高かった。

表 11 傘での危害やヒヤリ・ハットの経験（3種いずれかの持ち方をした理由別）

		n	経験がある （自分からの 加害）	経験がある （不注意等 による自傷）	経験はない
	全体	2,000	6.6	9.8	56.0
	3種いずれかの持ち方をしたことがある※1	679	11.2	12.5	55.8
3 種 い ず れ か の 持 ち 方 を し た 理 由 ※2	持ちやすいから	464	11.0	11.6	57.1
	傘の先端が地面に当たるのが嫌だから	161	13.0	19.9	44.1
	傘以外の持ち物があったから	88	28.4	22.7	34.1
	傘が揺れて不安定だから	77	33.8	18.2	27.3
	服や持ち物を濡らしたくないから	60	21.7	18.3	43.3
	手を空けておきたかったから	33	30.3	15.2	39.4
	その他	5	-	-	60.0
	特に理由はない	106	4.7	10.4	67.0

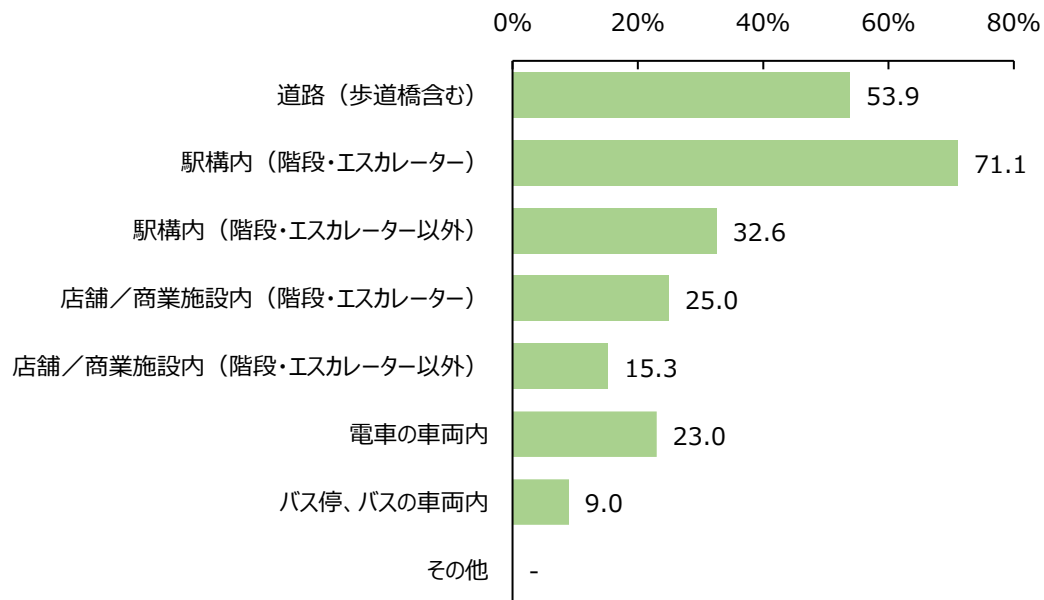
(人) (%)

※1 「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をしたことがある人

※2 「傘を斜めにして持つ」「傘を横にして持つ」「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」のいずれかの持ち方をした理由として該当の選択肢を選んだ人

（９）他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの発生場所

他人の傘で自分が受けた危害やヒヤリ・ハットの発生場所は、「駅構内（階段・エスカレーター）」が71.1%で最も高く、次いで「道路（歩道橋含む）」が53.9%であった。



※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人（n=700）

図 17 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの発生場所（複数回答）

性別でみると、男性と女性で差はみられなかった。

年代別でみると、「駅構内（階段・エスカレーター）」は20代が79.6%、30代が76.7%と、他の年代に比べて高かった。

表 12 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの発生場所（性別／年代別）

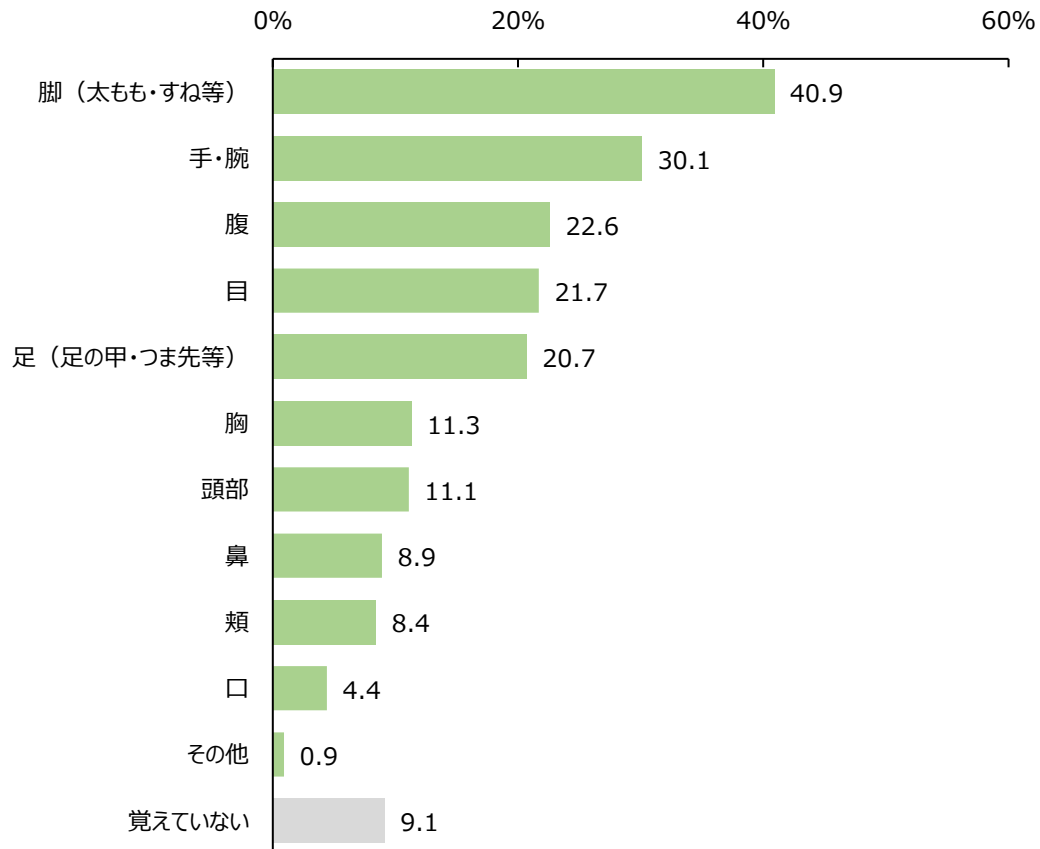
	n	道路 (歩道橋含む)	駅構内 (階段・エスカレーター)	駅構内 (階段・エスカレーター以外)	店舗／商業施設内 (階段・エスカレーター)	店舗／商業施設内 (階段・エスカレーター以外)	電車の車両内	バス停、バスの車両内	その他
全体	700	53.9	71.1	32.6	25.0	15.3	23.0	9.0	-
男性	284	54.6	72.5	31.7	23.9	11.6	21.5	7.4	-
女性	416	53.4	70.2	33.2	25.7	17.8	24.0	10.1	-
20代	103	43.7	79.6	26.2	22.3	16.5	18.4	8.7	-
30代	146	49.3	76.7	32.2	26.7	19.9	29.5	11.0	-
40代	142	57.0	72.5	38.0	26.1	14.1	26.1	9.2	-
50代	161	56.5	68.3	42.2	26.1	16.8	24.2	8.7	-
60歳以上	148	59.5	61.5	21.6	23.0	9.5	15.5	7.4	-

(人) (%)

※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人

(10) 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの体の部位

他人の傘で自分が受けた危害やヒヤリ・ハットの体の部位は、「脚（太もも・すね等）」が 40.9%で最も高く、次いで「手・腕」が 30.1%であった。



※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人（n=700）

図 18 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの体の部位（複数回答）

性別でみると、「腹」は男性が 25.0%で、女性の 20.9%より高かった。

年代別でみると、いずれの年代でも「脚（太もも・すね等）」の割合が最も高かった。次いで、20代では「目」が 31.1%、それ以外の年代では「手・腕」であった。

表 13 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの体の部位（性別／年代別）

	n	脚 (太もも・すね等)	手・腕	腹	目	足 (足の甲・つま先等)	胸	頭部	鼻	頬	口	その他	覚えていない
全体	700	40.9	30.1	22.6	21.7	20.7	11.3	11.1	8.9	8.4	4.4	0.9	9.1
男性	284	41.2	31.7	25.0	21.1	20.4	13.0	15.1	9.9	9.5	5.6	0.4	6.0
女性	416	40.6	29.1	20.9	22.1	20.9	10.1	8.4	8.2	7.7	3.6	1.2	11.3
20代	103	34.0	27.2	18.4	31.1	23.3	12.6	6.8	9.7	6.8	2.9	-	7.8
30代	146	49.3	28.1	24.7	24.0	26.7	13.0	17.1	9.6	8.9	4.1	-	8.2
40代	142	40.8	30.3	26.8	16.2	23.9	14.8	9.2	11.3	9.9	6.3	0.7	8.5
50代	161	42.9	37.3	19.9	25.5	19.3	9.3	10.6	9.3	9.3	5.6	0.6	6.2
60歳以上	148	35.1	26.4	22.3	14.2	11.5	7.4	10.8	4.7	6.8	2.7	2.7	14.9

(人) (%)

※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人

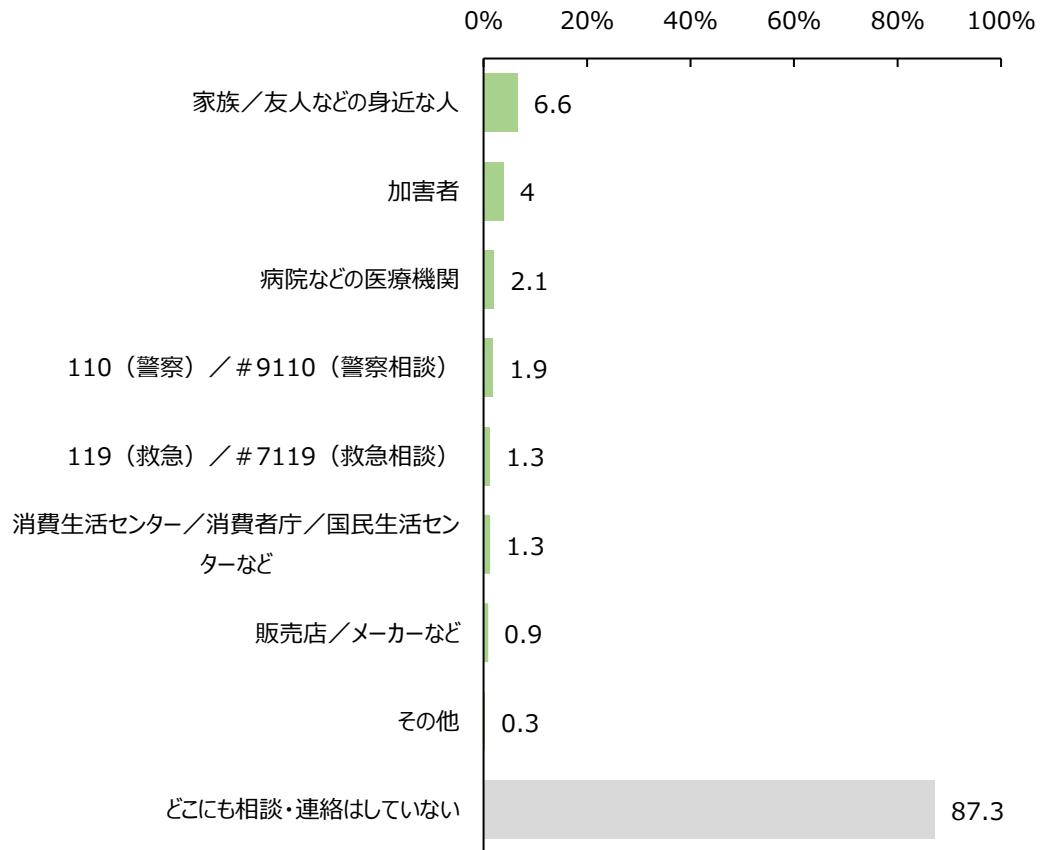
(1 1) 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例

表 14 他人の傘で受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例（抜粋／自由記述）

階段・エスカレーターでの事例	
20 代	階段を上っている時に横持ちしている人の傘の先端がみぞおちに刺さった。
30 代	駅構内の階段を上っているときに、前を上っていた人の傘の先端が頬に当たった。
60 歳以上	上りエスカレーターで前の人が持っている傘の先が目に入りそうになった。
60 歳以上	エスカレーターで傘を横に持っている人の傘先が顔の前に来た。
60 歳以上	駅の階段を上っている人が、傘を横にして振りながら上るので、顔に当たりそうで怖かった。
電車内での事例	
30 代	電車で座っている人の傘が斜めになって膝に当たった。
30 代	電車内で傘を畳もうとしている人が、先端をこちらの顔に向けていた。
50 代	電車の中で座っていて、立っている人の閉じている折りたたみ傘が落ちてきて当たった。
60 歳以上	電車内で腕に傘をかけている人が手を動かしたとき、傘の先端が脚に少し当たった。
60 歳以上	電車がとても混んでいて、近くの人々の傘の先端が足の甲に押し付けられた。
傘を振り回す事例	
40 代	小学生が傘を振り回していて横を通る際に当たりそうになり避けた。
40 代	駅構内で傘の水滴を振り落とすためか傘を振り回している人にぶつけられた。
50 代	駅のホームで電車待ちの時、傍にいた人が傘でゴルフスイングをしていて、顔面・頭にぶつかりそうになった。
60 歳以上	傘の雨きりに傘を振ることでぶつかりそうになり、注意したことがある。
その他の事例	
20 代	買い物中に近くにいる人の傘が横に突き出っていて、その人が急に方向転換してきて、その傘が足に刺さりそうになりました。
20 代	人が後ろから走ってきて、追い抜かれる際に傘の先端が目に入りそうになった。
40 代	道を歩いている時、前方から歩いてくる人とすれ違いざまにその人の傘の端の方が目に当たりそうになった。
50 代	商業施設を歩いていたら女の人が傘を差したまま携帯を見ているため、周りが見えてないらしく、私にぶつかった際に目に当たりそうになった。
50 代	真横に傘を持っている人が前を歩いていて、突然止まったので腹部に当たりそうになった。
50 代	普通に道を歩いている、傘を横に持って歩く背の高い男性や女性の先が、ちょうど 154 センチの私の胸あたりに来るので、目にもささりそうで怖い思いを何度もしています。駅やお店の階段も同じく、どうしてあのように持って歩くのかと怖いです。
60 歳以上	店から出た人がきちんと見ないでジャンプ傘を一気に開いた。私の顔に当たった。
60 歳以上	歩道で日傘をさしている女性とすれ違いざまに頭に傘がぶつかった。

（１２）他人の傘で危害やヒヤリ・ハットを受けたときの相談・連絡先

「どこにも相談・連絡はしていない」が 87.3%と最も多く、ほとんどの人が危害、ヒヤリ・ハット経験をしたにもかかわらず、どこにも報告していないことがわかった。相談・連絡先として最も多かったのは、「家族／友人などの身近な人」であった。その他の自由記述には、「警備員」等があった。



※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人（n=700）

図 19 他人の傘で危害やヒヤリ・ハットを受けたときの相談・連絡先（複数回答）

性別でみると、「加害者」に相談・連絡したのは男性が 6.7%で、女性の 2.2%より高かった。

年代別でみると、「どこにも相談・連絡はしていない」は 20 代を除き年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。

表 15 他人の傘で危害やヒヤリ・ハットを受けたときの相談・連絡先（性別／年代別）

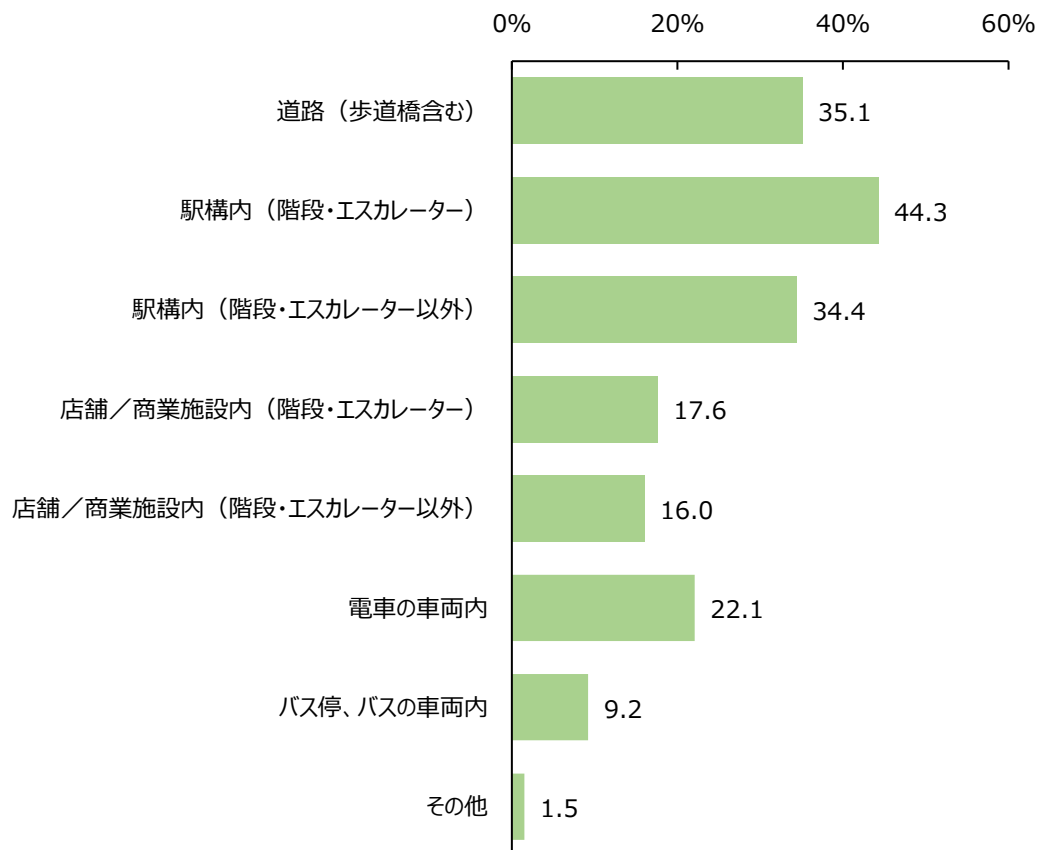
	n	家族／友人などの身近な人	加害者	病院などの医療機関	110（警察）／＃9110（警察相談）	119（救急）／＃7119（救急相談）	消費生活センター／消費者庁／国民生活センターなど	販売店／メーカーなど	その他	どこにも相談・連絡はしていない
全体	700	6.6	4.0	2.1	1.9	1.3	1.3	0.9	0.3	87.3
男性	284	4.6	6.7	2.1	2.5	1.1	0.7	0.7	0.4	87.0
女性	416	7.9	2.2	2.2	1.4	1.4	1.7	1.0	0.2	87.5
20 代	103	5.8	2.9	2.9	3.9	2.9	3.9	1.0	-	86.4
30 代	146	11.6	4.8	7.5	2.1	4.1	3.4	3.4	-	80.1
40 代	142	7.7	1.4	0.7	2.8	-	-	-	-	88.0
50 代	161	3.7	6.2	-	1.2	-	-	-	1.2	88.8
60 歳以上	148	4.1	4.1	-	-	-	-	-	-	92.6

(人) (%)

※他人の傘で自分が危害やヒヤリ・ハットを受けた経験がある人

（１３）自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの発生場所

自分の傘で他人に与えた危害やヒヤリ・ハットの発生場所は、「駅構内（階段・エスカレーター）」が 44.3%で最も高く、次いで「道路（歩道橋含む）」が 35.1%、「駅構内（階段・エスカレーター以外）」が 34.4%であった。その他の自由記述には、「イベント会場」「駐車場」があった。

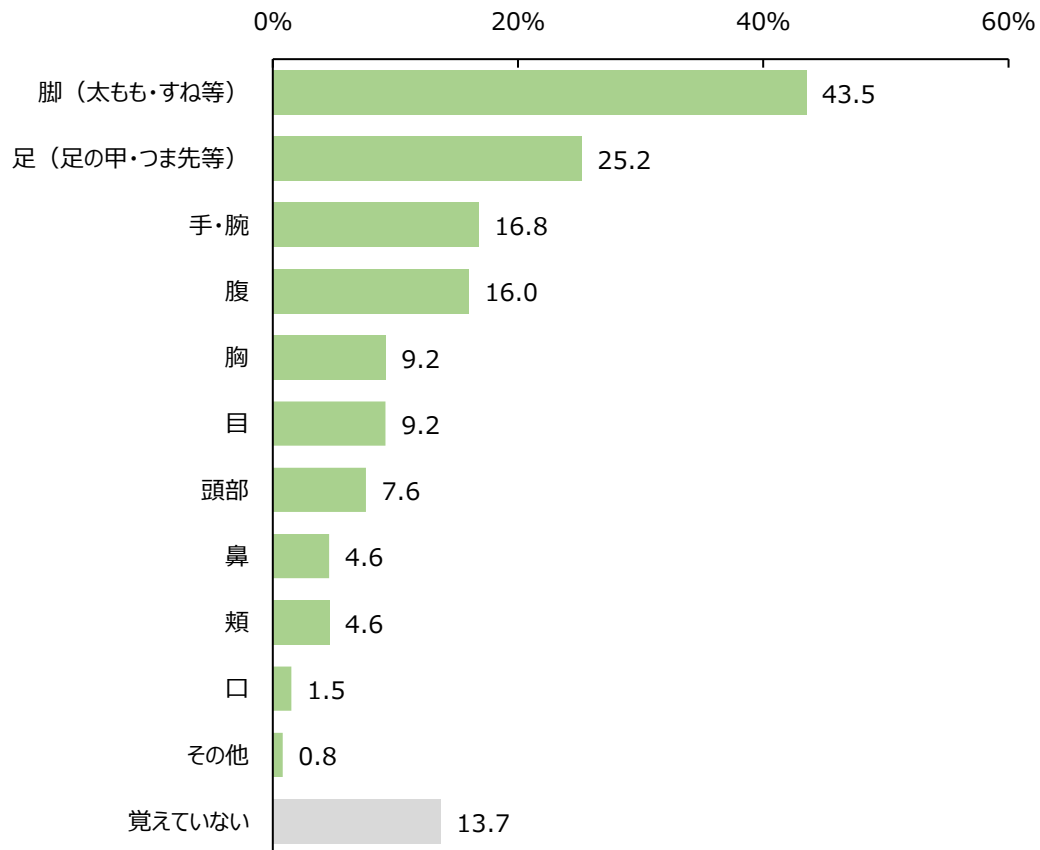


※自分の傘で他人に危害やヒヤリ・ハットを与えた経験がある人（n=131）

図 20 自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの発生場所（複数回答）

（１４）自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの体の部位

自分の傘で他人に与えた危害やヒヤリ・ハットの体の部位は、「脚（太もも・すね等）」が 43.5%で最も高く、次いで「足（足の甲・つま先等）」が 25.2%、「手・腕」が 16.8%であった。



※自分の傘で他人に危害やヒヤリ・ハットを与えた経験がある人（n=131）

図 21 自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの体の部位（複数回答）

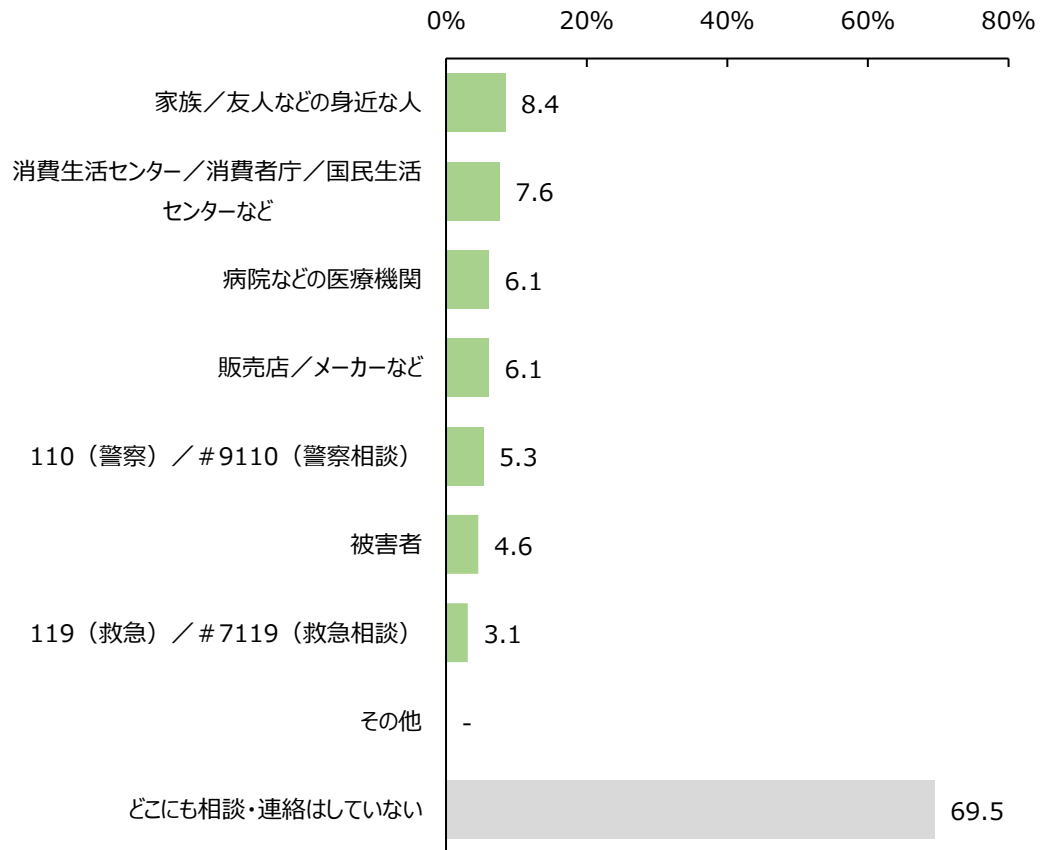
(15) 自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例

表 16 自分の傘で与えた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例（抜粋／自由記述）

階段・エスカレーターでの事例	
20 代	階段を上っている時に傘を振りながら歩いていたらぶつけそうになった。
40 代	駅の階段を上っている際、自分の傘が前の人に当たりそうになった。
40 代	エスカレーターで後ろの人に当たりそうになった。
60 歳以上	階段を上っている時に自分の傘が後ろの人に当たってしまった。
電車内での事例	
20 代	電車内でリュックを前に抱えていて、リュックと自分の身体の間で傘を挟んでいたのだが、その傘がずれ落ちてしまい、他の人によって飛ばされて自分・他人共に怪我をしそうになった。
30 代	満員の電車で傘の先が周りの人にぶつかってしまった。
30 代	電車で傘が倒れて相手に当たりそうになった。
60 歳以上	電車の車内で腰かけていた時、傘を倒してしまって他人の足の上にあたってしまった。
その他の事例	
20 代	道路で歩いているときに自分の傘がすれ違う人に当たってしまった。
60 歳以上	歩道が狭かったので傘の開いた部分が後頭部にあたってしまった。

(16) 自分の傘で危害やヒヤリ・ハットを与えたときの相談・連絡先

「どこにも相談・連絡はしていない」が 69.5%と最も多く、半分以上の人が危害、ヒヤリ・ハット経験を与えたにもかかわらず、どこにも報告していないことがわかった。相談・連絡先として最も多かったのは、「家族／友人などの身近な人」であった。



※自分の傘で他人に危害やヒヤリ・ハットを与えた経験がある人（n=131）

図 22 自分の傘で危害やヒヤリ・ハットを与えたときの相談・連絡先（複数回答）

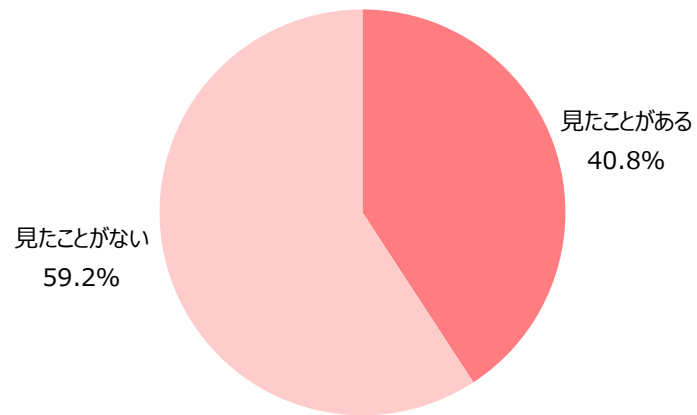
(1 7) 自分の傘で自分が受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例

表 17 自分の傘で自分が受けた危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例（抜粋／自由記述）

20 代	ビニール傘を閉じようとしたら、人差し指の皮膚が挟まった。
20 代	傘の骨組みの隙間に髪の毛が挟まれた。
20 代	傘を開いたら勢いよく開いて目に当たりそうになった。
20 代	折りたたみ傘のシャフトが固くなっていて勢いよく押し込み指を挟みそうになった。
20 代	折り畳み傘を閉じようとした時ボタンが固くてなかなか閉じられず力強く押したら爪が欠けた。
40 代	ワンタッチで開いたり閉じたり出来る折りたたみ傘を閉じようとしたら、勢いが良すぎて指の皮膚を挟んで傷になった。
40 代	ワンタッチ傘がうまく開かず、勢いで傘の露先が顔に当たりそうになった。
40 代	折り畳み傘を閉じようとしたら、指の肉が挟まった。折り畳み傘の骨が経年劣化で折れていたのに気づかず畳むときに指に折れた部分が刺さった。
40 代	自転車に乗るときにハンドルに傘をかけて走らせてしまった。その結果、傘が車輪に挟まり転倒しそうになった。ビニールの傘を閉じるときに指が挟まって血豆ができた。
50 代	ワンタッチ傘を閉じる際、ストッパーをかけることができず、傘が開き顔に当たった。
50 代	引っ掛けて折れた骨が顔に当たりそうになった。
50 代	傘を閉じる際に、金具に使用している部品の突起で指先を突いたことがある。怪我に至るほどではなかった。
60 歳以上	ワンタッチ傘が硬くて閉じにくく指が痛くなった。

（１８）傘での危害やヒヤリ・ハットの目撃経験

傘での危害やヒヤリ・ハットの目撃経験（第３者としてみた事例で、自身の経験は含まない。）は、「見たことがある」が 40.8%、「見たことがない」が 59.2%であった。



(n=2,000)

図 23 傘での危害やヒヤリ・ハットの目撃経験

性別でみると、「見たことがある」は女性が 43.6%で、男性の 38.0%より高かった。
年代別でみると、「見たことがある」は 20 代が 34.8%で、他の年代に比べて低かった。

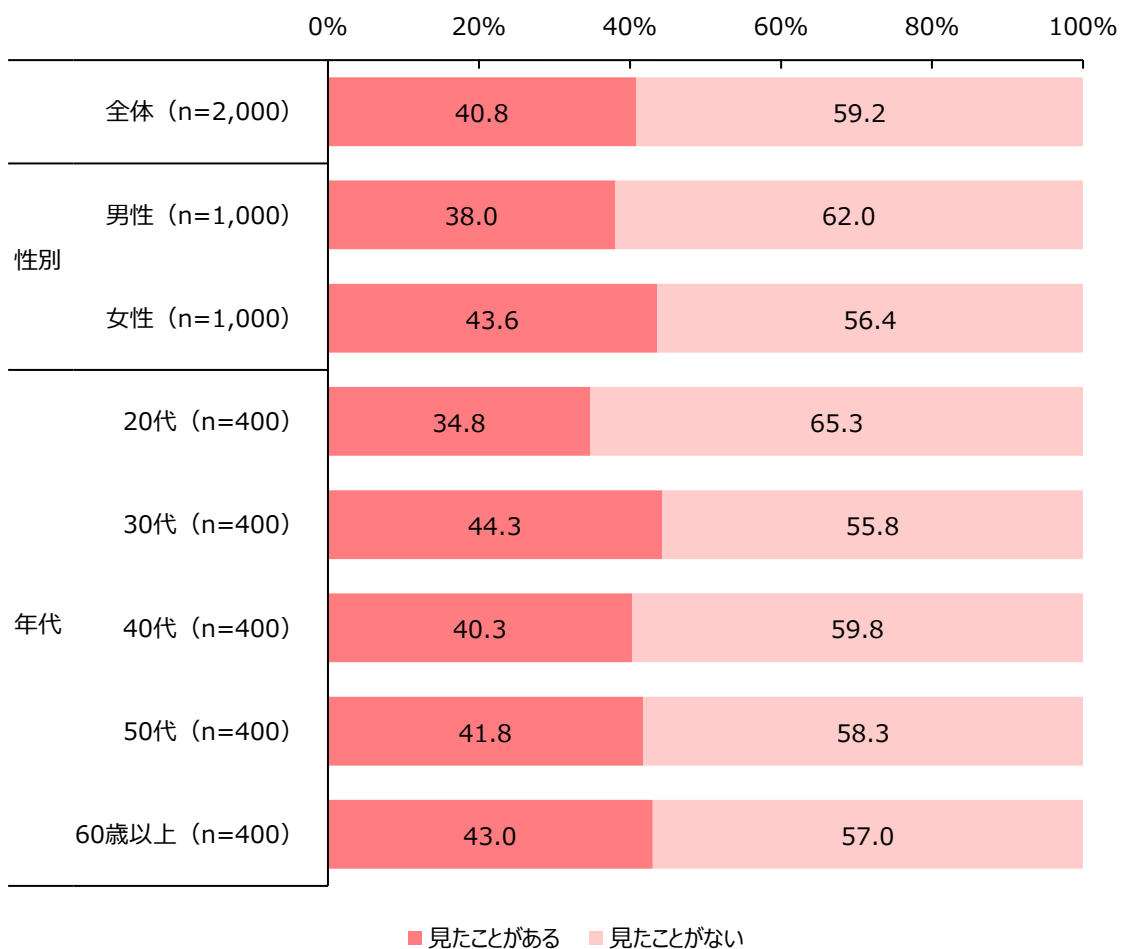
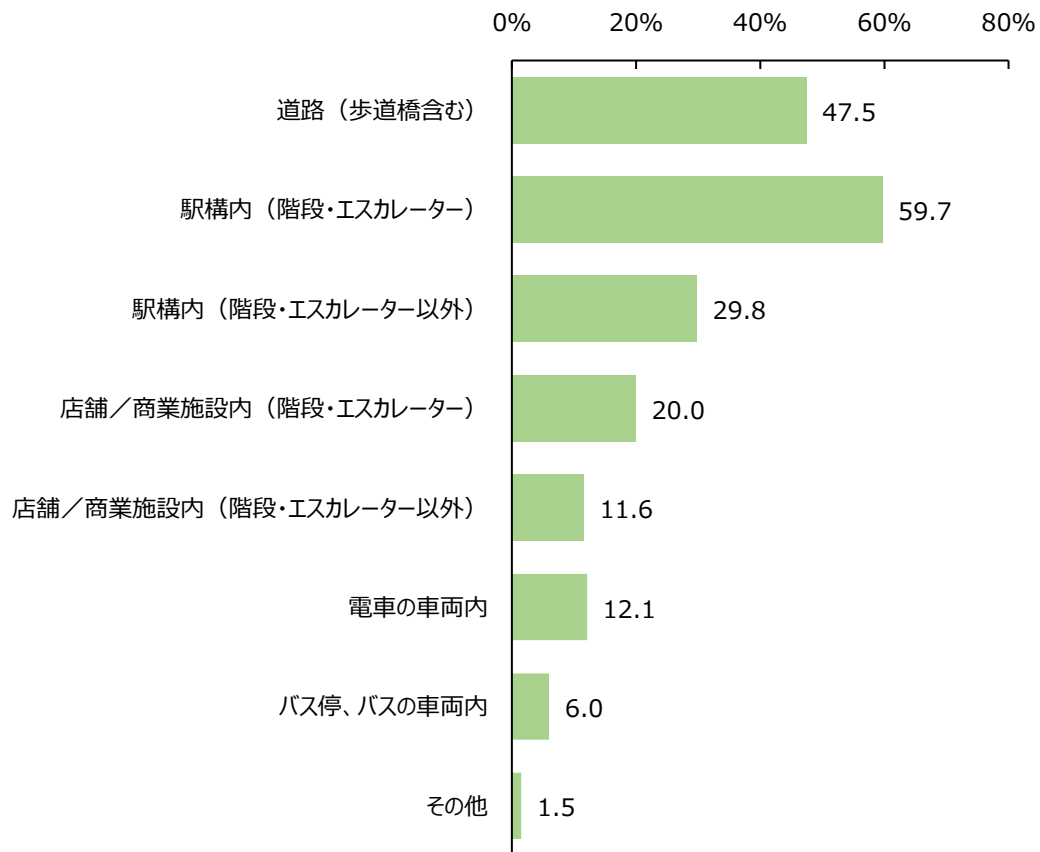


図 24 傘での危害やヒヤリ・ハットの目撃経験（性別／年代別）

（１９）目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの発生場所

目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの発生場所は、「駅構内（階段・エスカレーター）」が 59.7%で最も高く、次いで「道路（歩道橋含む）」が 47.5%であった。その他の自由記述には、「行列」「エレベーター」等があった。



※他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットを「見たことがある」人（n=816）

図 25 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの発生場所（複数回答）

性別でみると、男性と女性で差はみられなかった。

年代別でみると、「駅構内（階段・エスカレーター）」は 30 代が 65.0%と、他の年代に比べて高かった。

表 18 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの発生場所（性別／年代別）

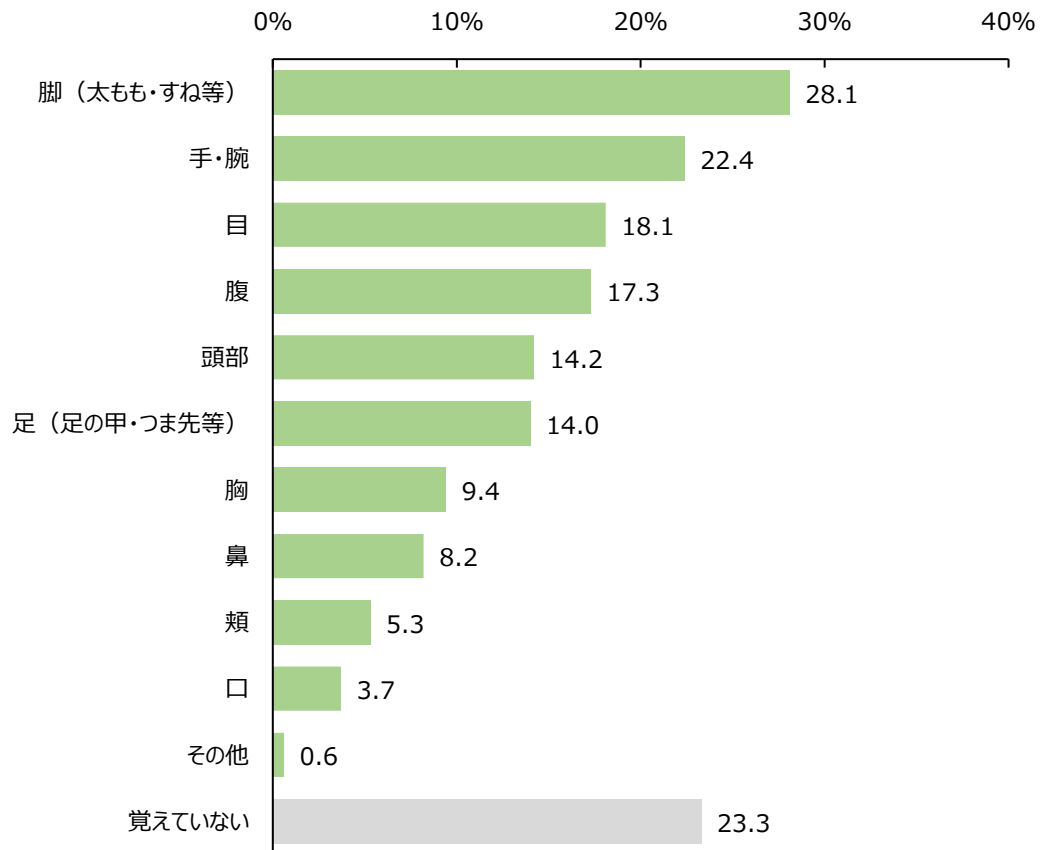
	n	道路 (歩道橋含む)	駅構内 (階段・エスカレーター)	駅構内 (階段・エスカレーター以外)	店舗／商業施設内 (階段・エスカレーター)	店舗／商業施設内 (階段・エスカレーター以外)	電車の車両内	バス停、バスの車両内	その他
全体	816	47.5	59.7	29.8	20.0	11.6	12.1	6.0	1.5
男性	380	49.5	61.1	33.2	20.8	11.8	12.9	6.3	0.8
女性	436	45.9	58.5	26.8	19.3	11.5	11.5	5.7	2.1
20 代	139	44.6	59.7	24.5	15.1	11.5	10.8	5.0	0.7
30 代	177	39.0	65.0	27.1	23.2	11.9	12.4	5.6	1.1
40 代	161	54.7	60.2	38.5	21.1	11.8	14.9	5.6	0.6
50 代	167	51.5	60.5	34.1	20.4	11.4	13.8	7.8	2.4
60 歳以上	172	48.3	52.9	24.4	19.2	11.6	8.7	5.8	2.3

(人) (％)

※他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットを「見たことがある」人

(20) 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの体の部位

目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの体の部位は、「脚（太もも・すね等）」が28.1%で最も高く、次いで「手・腕」が22.4%であった。



※他人同士の傘による危害やヒヤリ・ハットを「見たことがある」人（n=816）

図 26 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの体の部位（複数回答）

(2 1) 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例

表 19 目撃したことのある、傘による危害やヒヤリ・ハットの具体的な事例（抜粋／自由記述）

階段・エスカレーターでの事例	
20 代	階段を上っていた前の人の傘が後ろを歩いていたお婆さんの首にささりそうだった。
20 代	傘を横にして持っている人が、早歩きで階段を上っているため、通行人の人が避けている様子を見たことがある。
60 歳以上	階段を上っている人が急に横に傘を持ったので、後ろの人が思わず顔をよけた。ぶつかるまではいかなかったが危ないと思った。
60 歳以上	駅構内のエスカレーター（上り）で傘をきちんと閉じていない上に斜めに持っていて後ろの人にぶつかりそうになっていた。
60 歳以上	階段で傘を斜めに持って上っていく人が急いでいたのか人を抜きながら上っているときに子供の帽子に傘の先が当たったのを見た。恐ろしかったが、親が気づかず、そのまま走って逃げていってしまった。
電車・バス内での事例	
30 代	電車内の混雑時に傘を下にツツツとぶつける癖のある方がいて、周りの人の足元にもぶつけていた。
30 代	バスの中で立っている人が持っている傘が座っている人の足の甲に当たっていた。
40 代	電車で立っている人の長傘の先が、座っている人に当たりそうになった。
40 代	つり革を持った手の腕に傘をぶら下げていて、座っている人の顔に当たりそうになった。
50 代	混雑したバス車内でベビーカーに挿した傘の先端が年配の人の足に当たった。
50 代	電車内で傘をたたもうとして誤って傘を開いてしまった男性を見ました。
60 歳以上	電車内でバランスを崩した人の傘が別の人の足先に当たりそうになった。
自転車での事例	
40 代	傘をさしながら自転車に乗っていた人が傘を落として通りすがりの人にぶつかりそうになった。
50 代	傘を自転車のカゴにくくりつけて走っている人がいて歩行者とぶつかりそうになっていた。
その他の事例	
20 代	小学生が傘を上にあげて持っており、ちょうど大人の目の高さだった。
20 代	道路を歩いている人が平行持ちしていて、後ろを歩いている子供の顔に当たりそうだった。
20 代	大人が持っていた傘の先端がベビーカーに当たりかけた。
40 代	子どもを連れて駅構内を歩いているとき、折り畳み傘を閉じてもまとめてもない状態で手に持って歩いている人がおり、子どもの目線に傘の鋭利な部分が露出していたので危険だと思った。
50 代	混雑している歩道の信号待ちですれ違いざまに開いた傘の先端が目付近に当たっていた。
60 歳以上	傘を脇に抱えた格好で先端が後ろの子供の目先にきていた。

3 傘の表示調査

3.1 検体選定

用途及び性状、形状等に考慮し計 3 検体を選定した。

検体は図 27 の通りである。

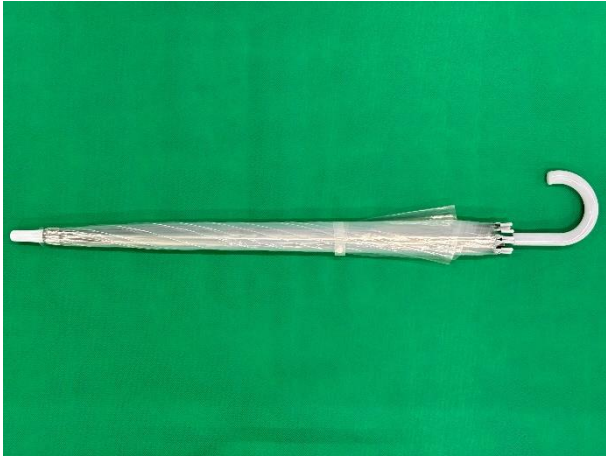
検体 No.	種類	傘外観
1	ビニール傘	
2	雨傘	
3	日傘 (晴雨兼用)	

図 27 検体一覧

3.2 表示調査概要

検体の包装及びタグ等に記載された仕様及び注意事項等の表示を確認した。
調査項目は表 20 の通りである。

表 20 調査項目

NO.	表示内容
1	長さ※ ¹
2	重さ
3	石突きの直径
4	価格
5	材質
6	JUPA マーク※ ² の有無
7	使用上の注意事項

※¹ 家庭用品品質表示法の雑貨工業品品質表示規程に基づき、親骨の長さで表示

※² 日本洋傘振興協議会が設定する品質基準（JUPA 基準）に適合した会員企業の製品に表示しているマーク



図 28 ビニール傘外観（開いた状態）

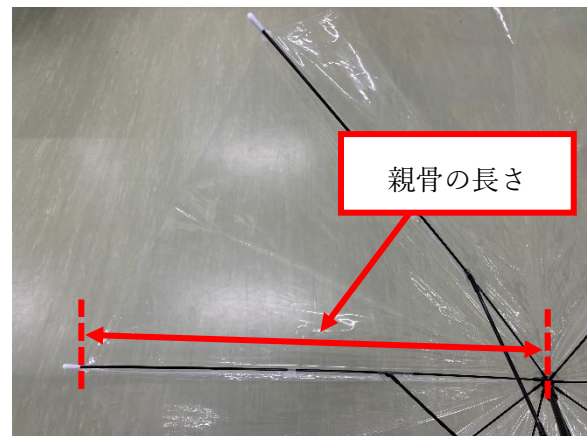


図 29 ビニール傘外観（親骨部拡大）

3.3 表示調査結果

調査結果は、それぞれ表 21～23 の通りである。

表 21 検体 No.1 ビニール傘

No.	表示内容	調査結果
1	長さ	親骨の長さ 70 cm
2	重さ	－ (408.34 g) ^{※1}
3	石突きの直径	－ (16.00 mm) ^{※1}
4	価格	948 円 (税込)
5	材質	傘生地の組成 ポリエチレン
6	JUPA マークの有無	無し
7	使用上の注意事項	●製品にはとがった部分があります。 常に周囲の安全を確認してご使用ください。 ●ステッキがわりに使用しないでください。 ●手元、又は骨の先端がこわれたまま使用しないでください。 ●振り回したり、投げたりしないでください。 ●強風時は、破損する恐れがありますので、使用しないでください。 ●傘骨の一部にグラスファイバー（ガラス繊維）を使用しています。 傘骨の表面に傷がついた場合、飛び出したガラス繊維が手指に刺さる 事がありますので、素手で触らない様ご注意ください。 ※お子様には保護者からご注意ください。

※1 記載なしのため、実測

(重さは島津製作所製 電子天びん UW6200H、直径はテクロック製 Bluetooth デジタルノギス SSC-650)。

表 22 検体 No.2 雨傘

No.	表示内容	調査結果
1	長さ	親骨の長さ 70 cm
2	重さ	－ (675.13 g) ^{※2}
3	石突き径の直径	－ (9.10 mm) ^{※2}
4	価格	3,300 円 (税込)
5	材質	傘生地組成 ポリエステル 100%
6	JUPA マークの有無	有り
7	使用上の注意事項	・傘を軽く振り生地をほぐしてから開けて下さい。 ・製品には尖った部分があります。 常に周囲の安全を確認してご使用ください。 ・ステッキがわりに使用しないでください。 ・手元や骨が壊れたまま使用しないでください。 ・振り回したり、投げたりしないでください。 ・強風時は破損する恐れがありますので使用しないでください。 ・強い雨の際は水滴が浸みだすことがあります。 ・ご使用後は陰干しにしてからおしまい下さい。 ・黒等の濃色生地の場合は水濡れ等により色落ちする場合があります のでご注意ください。 ・お子様がご使用になる場合は、保護者の方から十分にご注意をして 下さい。

※2 記載なしのため、実測

(重さは島津製作所製 電子天びん UW6200H、直径はテクロック製 Bluetooth デジタルノギス SSC-650)。

表 23 検体 No.3 日傘（晴雨兼用）

No.	表示内容	調査結果
1	長さ	親骨の長さ 50cm
2	重さ	－ (262.04 g) ^{※3}
3	石突き直径	－ (9.90 mm) ^{※3}
4	価格	2,200 円 (税込)
5	材質	傘生地組成 ポリエステル 100%
6	JUPA マークの有無	有り
7	使用上の注意事項	● 本製品には尖った部分があります。周りの人や物にあたらないよう、周囲の安全を確認してご使用ください。 ● 手元や骨等が壊れた場合は、怪我や事故になる恐れがある為、使用を中止してください。 ● 強風の時は、本製品が破損する恐れがありますので使用しないでください。 ● ステッキとして使用するなど、傘本来の目的以外での使用は止めてください。 ● 本製品は、自転車・ベビーカー等と固定する器具に取り付けて使用する構造になっておりません。破損、視野の妨げ、重大な事故の原因となる恐れがありますので、絶対に取り付けしないでください。 ● 傘骨には、構造上骨同士が狭くなっている部分やとがった部分があります。手や指を怪我する恐れがありますので、ご注意ください。 ● ハンドクリームや日焼け止めクリーム等が、本製品の生地・手元等の色落ちの原因になる場合があります。 ● ご使用後は、本製品を陰干しにして完全に乾いてからおしまいください。濡れたまま保管しますと、錆の発生や生地の色移りの原因となる場合があります。 ※お子様がご使用の際は、保護者からご注意・ご指導ください。

※3 記載なしのため、実測

(重さは島津製作所製 電子天びん UW6200H、直径はテクロック製 Bluetooth デジタルノギス SSC-650)。

各検体の「使用上の注意事項」をまとめた結果は表 24 の通りである。

表 24 3 検体の使用上の注意事項の表示比較

使用上の注意事項	ビニール傘	雨傘	日傘 (晴雨兼用)
とがった部分がある 周囲の安全を確認して使用する	○	○	○
ステッキとして使用しない	○	○	○
手元や骨が壊れたまま使用しない	○	○	○
振り回したり、投げたりしない	○	○	
強風時の注意	○	○	○
強雨時の注意		○	
傘骨で手指をケガする恐れ	○		○
自転車やベビーカーへの取り付け			○
色落ち		○	○
陰干し		○	○
子供には保護者が注意する	○	○	○

4 傘の安全性に関する試験

4.1 傘の横持ち衝突試験

試験日：令和 6 年 11 月 14 日

試験場所：東京都内某所

試験室環境：24℃、37%RH

試験装置：エス・テック製 衝撃耐久性試験機 (特注品)

4.1.1 試験概要

横持ちした傘の石突き部分が人にぶつかる想定で傘の横持ち衝突試験を実施した。

振り子装置に検体 No.2 雨傘を固定し、歩行時の腕振りを想定した速度でダミー人形の左目をめがけて検体を振り下ろし、目元へ向かってくる傘の様子を撮影した。

振り下ろし開始角度は 45°、腕を模したシャフト及び傘固定用治具の長さは 87 cm、重さは 2 kg であった。

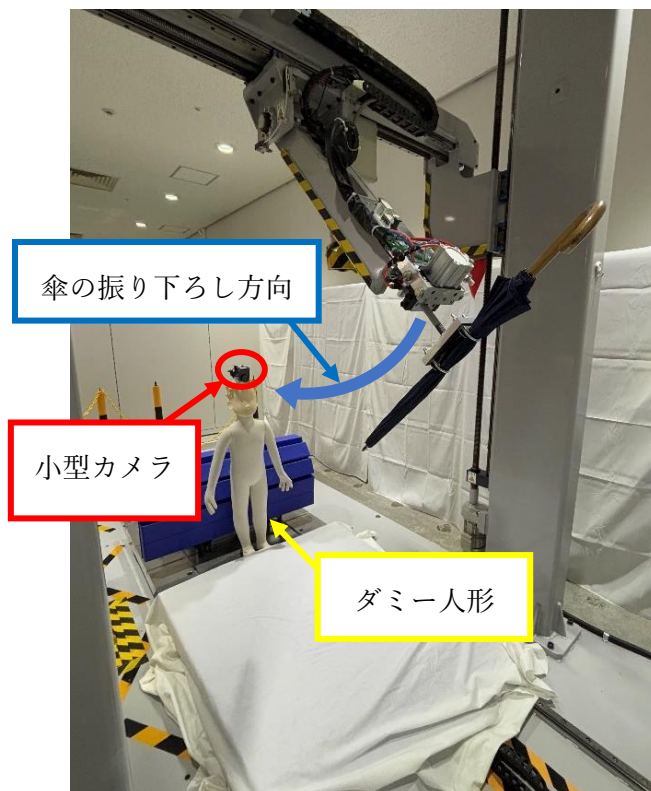


図 30 試験状況 (傘の横持ち衝突試験)

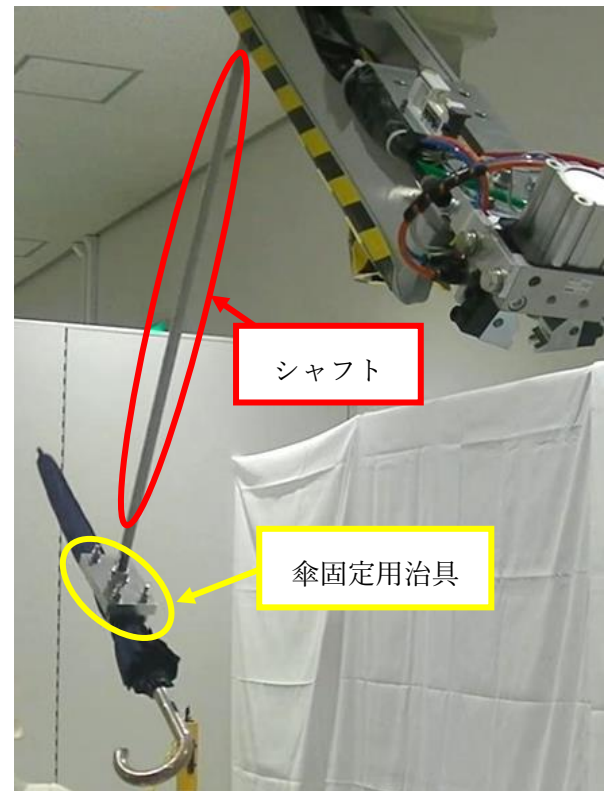


図 31 腕を模したシャフト及び治具



図 32 傘固定用治具に傘を固定した状態

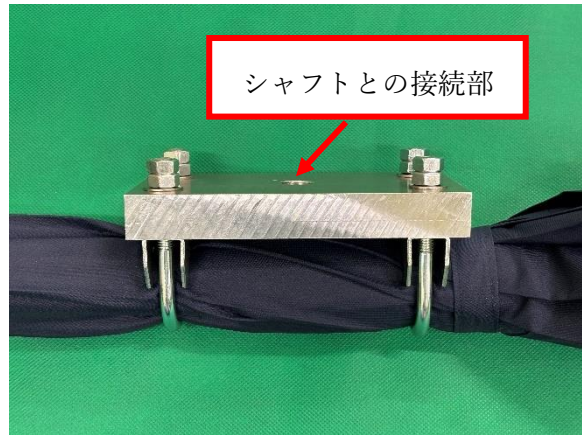


図 33 傘固定用治具に傘を固定した状態
(治具部分拡大)

4.1.2 試験結果

目元へ向かってくる傘の様子及び、ダミー人形へ衝突する様子を撮影した。
以下に動画より抽出した画像を示す。

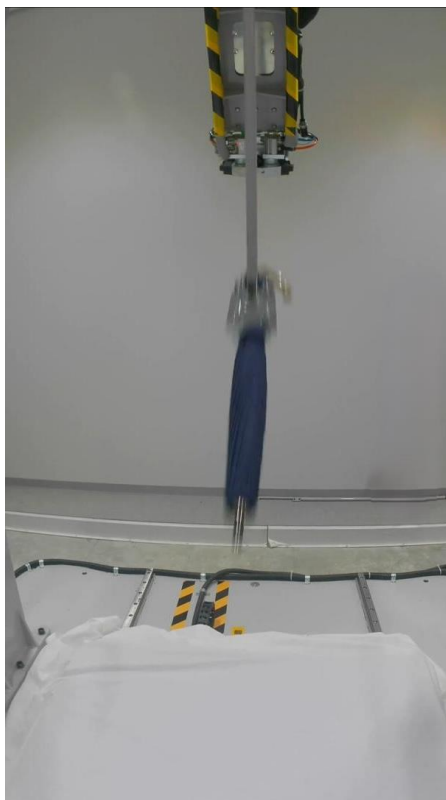


図 34 振り下ろし直後の様子



図 35 目元近くに向かってきた時点の様子



図 36 ダミー人形へ傘が衝突する様子

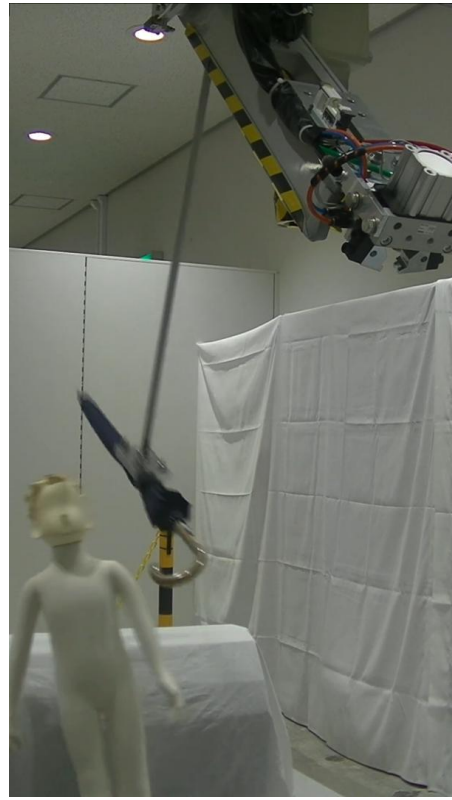


図 37 傘が衝突しダミー人形が倒れかける様子

4.2 傘の横持ち衝撃可視化

試験日：令和 6 年 11 月 14 日

試験場所：東京都内某所

試験室環境：24℃、37%RH

試験装置：エス・テック製 衝撃耐久性試験機 (特注品)

4.2.1 試験概要

横持ちした傘の石突き部分が、人にぶつかった場合の衝撃を可視化した。

振り子装置に検体 No.1～3 をそれぞれ固定し、歩行時の腕振りを想定した速度で相手材（ガラス）をめがけて検体を振り下ろし、ガラスの割れる様子を撮影した。

振り下ろし開始角度は 45°、腕を模したシャフト及び傘固定用治具の長さは 87 cm、重さは 2 kg であった（4.1 傘の横持ち衝突試験と同様）。

ガラスには飛散防止のため、傘衝突面の反対面にテープ（アスクル製 セロハンテープ 幅 18 mm）を貼り付けた状態で試験に供した。



図 38 試験状況 (傘の横持ち衝撃可視化)



図 39 試験状況 (傘の横持ち衝撃可視化)

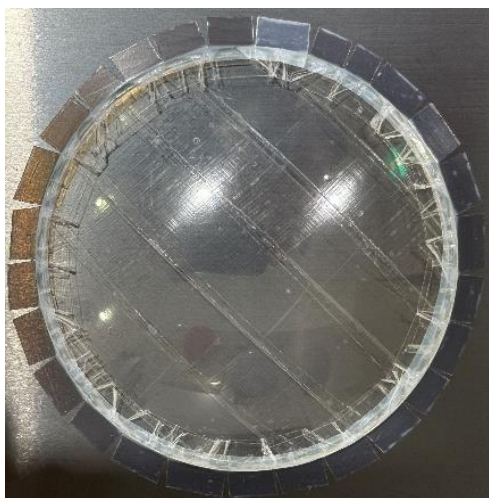


図 40 相手材 (ガラス) の外観

ガラスの詳細：時計皿

直径 100 mm

厚さ 1.6 mm

材質 ショット AR グラス
(ソーダ石灰ガラス)

4.2.2 試験結果

相手材（ガラス）の破損状況は図 41 の通りである。

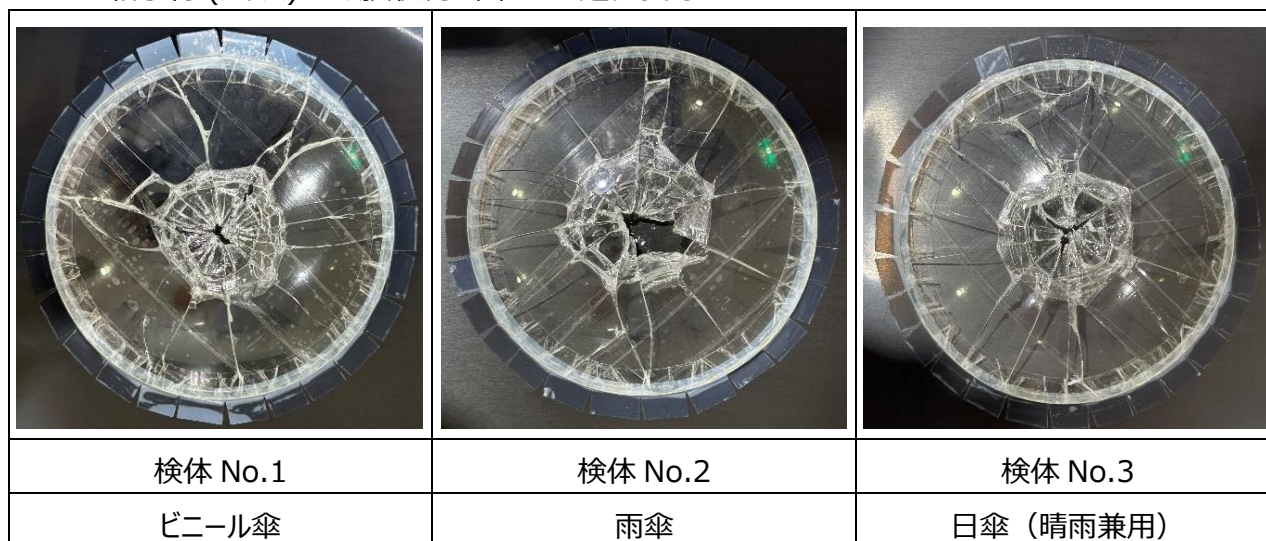


図 41 相手材（ガラス）の破損状況

傘の石突きによりガラスが割れる様子を撮影した。

以下に動画より抽出した画像を示す。



図 42 試験開始前のガラスの様子



図 43 雨傘の石突きが衝突した直後のガラスの様子

4.3 傘の横持ち衝撃力測定

試験日：令和 6 年 11 月 14 日

試験場所：東京都内某所

試験室環境：24℃、37%RH

試験装置：エス・テック製 衝撃耐久性試験機（特注品）

共和電業製 ロードセル（特注品）

キーエンス製 データ収集システム NR-600

キーエンス製 ひずみ計測ユニット NR-ST04

4.3.1 試験概要

横持ちした傘の石突き部分が、人にぶつかった場合の衝撃力を測定した。

振り子装置に検体 No.1～3 をそれぞれ固定し、歩行時の腕振りを想定した速度で衝撃力測定器（ロードセル）をめがけて検体を振り下ろした。

試験結果のばらつきの可能性を考慮し、各検体を 3 回ずつ測定した。

衝撃力測定器に対し、検体の石突きが概ね垂直に当たるよう角度を調整した。

振り下ろし開始角度は 45°、腕を模したシャフト及び傘固定用治具の長さは 87 cm、重さは 2 kg であった（4.1 傘の横持ち衝突試験と同様）。

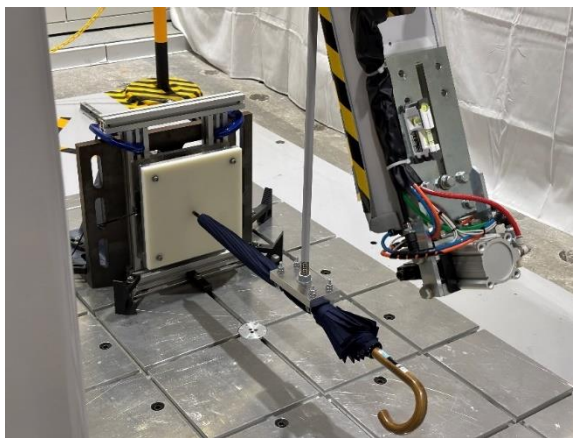


図 44 試験状況（傘の横持ち衝撃力測定）

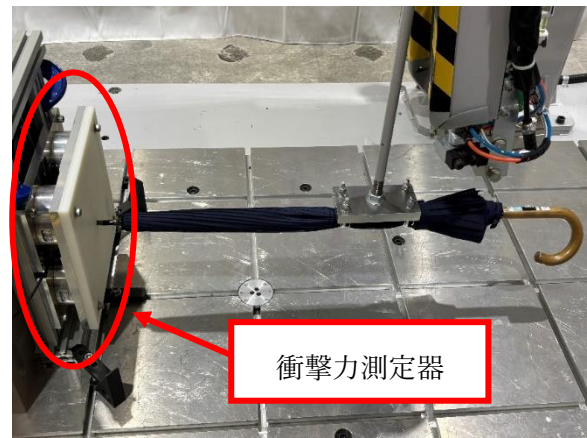


図 45 試験状況（傘の横持ち衝撃力測定）

4.3.2 試験結果

得られた衝撃力を表 25 に示す。

表 25 傘の横持ち衝撃力

検体 No.	種類	測定数	衝撃力 (N) {kgf}
1	ビニール傘	1	1689.3 {172.3}
		2	1781.9 {181.7}
		3	1762.7 {179.7}
2	雨傘	1	2307.5 {235.3}
		2	2305.2 {235.1}
		3	2356.5 {240.3}
3	日傘 (晴雨兼用)	1	1698.4 {173.2}
		2	1645.0 {167.7}
		3	1730.9 {176.5}

5 まとめ

5.1 Web アンケートによる傘に関する都民の使用実態調査

- ・普段使用する傘の種類は雨傘では、「長傘」が 76.3%、「折りたたみ傘」が 66.8%であるのに対し、日傘では、「長傘」が 13.6%、「折りたたみ傘」が 30.4%と、折りたたみ傘のほうが高かった。
- ・傘の入手・購入方法は「雑貨店／量販店など」が 55.8%で最も高かった。「雑貨店／量販店など」は 20 代を除き年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。一方、「インターネット販売」「コンビニエンスストア」は、20 代を除き年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられた。
- ・傘を入手・購入するときの決め手は「価格」が 64.7%で最も高かった。「色／デザイン」は男性より女性のほうが倍以上高かった。
- ・したことのある持ち方は「傘を斜めにして持つ」、「傘を横にして持つ」及び「傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ」を合わせると 679 人（34.0%）であった。
- ・傘の注意表示の確認状況は「確認していない」が 73.9%と大半を占めた。その理由としては、「そもそも注意表示があることを知らなかったから」が 38.9%で最も高かった。
- ・傘での危害、ヒヤリ・ハットの経験は、「経験がある（他人からの被害）」が 35.0%、「経験がある（自分からの加害）」が 6.6%、「経験がある（不注意等による自傷）」が 9.8%であった。「経験がある（自分からの加害）」に男性と女性で差はみられなかった。全体の 44%の人が、傘によって何かしらの危害、ヒヤリ・ハット経験がある、ということが分かった。

危害、ヒヤリ・ハットの経験を傘の持ち方別でみると、「経験がある（自分からの加害）」は『傘を横にして持つ』で 22.7%、『傘を横にしてかばんなどと一緒に持つ』で 22.5%と他の持ち方に比べて高く、横向きに持った傘が他人に対して危害、ヒヤリ・ハットを与えてしまうことにつながることが分かった。
- ・危害、ヒヤリ・ハットを受けた／与えた場所は「経験がある（他人からの被害）」「経験がある（自分からの加害）」共に『駅構内（階段・エスカレーター）』が最も高かった。
- ・危害、ヒヤリ・ハットを受けた／与えた体の部位は「経験がある（他人からの被害）」「経験がある（自分からの加害）」共に『脚（太もも・すね等）』が最も高かった。
- ・危害、ヒヤリ・ハットを受けた／与えたときの相談・連絡先は「経験がある（他人からの被害）」「経験がある（自分からの加害）」共に『どこにも相談・連絡はしていない』が最も高かった。

5.2 傘の表示調査

重さや石突きの直径については表示を確認できなかった。また、ビニール傘には JUPA 基準のマークがなかった。注意喚起については、すべての検体で「尖った部分があるため、周囲の安全を確認して使用する」、「ステッキとして使用しない」及び「子どもが使用する場合は、保護者の方から十分な注意をする」旨の記載が確認できた。

5.3 傘の安全性に関する試験

5.3.1 傘の横持ち衝突試験

傘の石突き部分が向かってくる様子をダミー人形からの目線で撮影した結果、目元に対して飛び込んでくる危険性が見て取れた。

5.3.2 傘の横持ち衝撃可視化

相手材（ガラス）に対しては検体 No.1～3 全てにおいて破損することを確認した。石突きが樹脂製で比較的柔らかく、直径の大きい検体 No.1（ビニール傘）、比較的軽量で、石突きが金属製かつ直径の小さい検体 No.3（日傘（晴雨兼用））においても破損した。石突きがガラスに衝突する際に、細かなガラス片が飛散していることも確認でき、衝撃の大きさが見て取れた。

5.3.3 傘の横持ち衝撃力測定

検体 No.1（ビニール傘）と検体 No.3（日傘（晴雨兼用））においては同程度の衝撃力であった。傘自体の重量が大きく、石突きが金属製かつ直径の小さい検体 No.2（雨傘）の衝撃力が最も大きかった。

3 検体の衝撃力は 1645.0～2356.5 N（167.7～240.3 kgf）と大きく、顔や身体に衝突した場合、重篤なケガにつながる可能性があることが分かった。

6 消費者へのアドバイス

6.1 表示以上の長さであることを意識しましょう。

一般的に表示されている「傘の長さ」は親骨の長さを指し、持ち手や傘の先端（石突き）の長さは入っていません。表示以上に長いものを持っていることを意識しましょう。

6.2 石突きが真下に向くように持ちましょう。

傘は、持ちやすいからと言って横向きに持つと危険です。携行するときは、必ず持ち手を持ち、石突きが真下（地面・床面方向）に向くようにしましょう。例えば、下図のように傘を持つと、持ち手への負担も少ないうえ、傘から落ちる水滴が周囲に広がらず、石突きが階段等の段差に当たりにくくなります。



7 参考文献

- 1) 総務省統計局, 統計でみる都道府県のすがた 2024, 14 (2024)
- 2) 環境省報道発表資料, <https://www.env.go.jp/press/106813-print.html>,
(2019)、アクセス日 2024 年 12 月 20 日
- 3) ウェザーニュース, <https://weathernews.jp/s/topics/202205/240205/>, (2022)、
アクセス日 2024 年 12 月 20 日
- 4) 東京都生活文化局消費生活部, ヒヤリ・ハット調査「降雨時の身の回りの危険」 8 (2013)